

和仏法律学校講義録

竹井, 耕一郎 / 勝本, 勘三郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3

(号 / Number)

号外の9

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

68

(発行年 / Year)

1901-06-17

和佛法律學校

講義錄

(完了)

第三部

第九之號

刑法各論(完)(頁九五三)法學士勝本勘三郎

表紙及目次 二十二頁

行政法(完)(頁三七九)法學士竹井耕一郎

表紙及目次 六頁



090
1900
3-2-9

爲ニシテ本罪ト竊盜罪トノ被ルル所ハ遺失物ナリヤ將タ他人ノ占有スル物件
ナリヤニ在リト曰フ者アリト雖モ予ハ拾得トハ所有者ノ爲メニ物件ヲ保護セ
ントノ善意ノ行爲ニシテ本罪ト始メ善意ヲ以テ獲得シタル物ヲ後ニ至リ横領
セシトノ惡意ヲ生シ之ヲ隱匿又ハ處分スルニ因リテ構成スルモノニシテ胃認
罪ノ一種ナルカ故ニ本罪ト竊盜罪トノ被ルル所ハ物カ遺失セラレタル物ナル
ト否トニ在ラスシテ初メ犯人ノ之ヲ其占有ニ移入レタル所爲カ之ヲ自己ノ物
トセントノ意思即チ奪取ノ意思ノ表示ナリシヤ將タ單ニ他人ノ所有物ヲ保護
セントノ意思即チ保管ノ意思ノ表示ナリシヤニ在ルモノトス蓋シ法文遺失物
法第一條所謂所有者云云ニ返還シ又ハ官署ニ差出スヘシト云フカ如キハ他人
ノ物件ヲ奪取シタル者ニ對シテ言フヘキノ語ニ非サレハナリ注意奪取ノ意思
ナレカ保管ノ意思雖テ拾得ノ行爲多クカハ無形上ノ判斷ニ據ルカ故ニ通常
之ヲ例別スルコト困難ナルノ結果多クカハ無形上ノ判斷ニ據ルカ故ニ通常
ヘシト罪モ彼ノ現實ニ物キ自己ノ手中ニ移シ知ルニ於テハ單ニ拾得ノ行爲ト爲
失者自ラ之ヲ拾得セ得ルカ知キ場合ニ於テハ其遺失ヲ幸トシテ
竊ニ之ヲ取得シタルカ知キ場合ニ於テハ奪取ノ意思發見ヲ以テ拾得ノ行爲ト
ナレカ場合ニ於テハ竊盜ノ行爲ト成ルカ知キ場合ニ於テハ奪取ノ行爲ト爲
トス又曰ク遺失物法第十條

刑法各論 身體財產三對スル重罪輕罪 財產三對スル重罪輕罪

所謂誤りテ占有シタル物件トハ犯人カ誤リテ占有シタル物件ノ義ニシテ
他人カ誤リテ自己ニ占有セんとスルコトヲ知リテ占有セザルコトヲ要ス
詐欺取財トス

乙 埋藏物ニ關スル罪

埋藏物ニ付テハ遺失物法第十三條ノ精神上精神初メヨリ所有者ナキコトノ
明白ナル物ト雖モ犯罪ノ目的ト爲リ得ヘキモノナルカ故ニ遺失物ト異ナリ
管テ人ノ所有ニ屬シ現時地下ニ埋没シテ人ノ之アルコトヲ知ラザリシ有體
動産ハ皆本罪ノ目的物ト爲リ得ヘキモノトス

其他ハ遺失物ニ付テノ説明ニ準據シテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキカ故ニ省略ス
以上説明シタル所ニ據リ本罪ハ橫領罪中所謂冒認罪ノ一種ニ屬シ其竊盜罪ト
較ルル點ハ初メ之ヲ獲得スルノ意思カ橫奪ニ在ルカ善意ノ占有ニ在ルカニ存
シ其冒認罪ト較ルル點ハ犯罪ノ所爲カ犯人ノ遺失物ト認メタル物ニ對シ行ハ
レタルト否トニ存ス律ハ先テ犯罪人ノ占有ニ在ル動産ニ對スル領有ノ行爲ヲ
約ニ基キテ委託セラルル物ヲ買賣交換シテ未ダ引渡シテ爲ササル物亦此中ニ入
ル蓋シ買主又ハ交換ノ相手者ノ信託ニ因リ賣主又ハ交換ノ相手者ノ手
ニ存スル物ナレハハナリニ對シテ行ハレタル物ニ對スル行爲ハ更ニ之ヲ認
ムコトトス

人ノ惡意ノ程度如何ニ因リ委託物費消損ト重キ委託物費消損及ヒ冒認罪トノ
二級ニ分テ契約ニ基カスシテ犯人ノ占有ニ在ル物ニ對スル行爲ハ罪輕重ヲ
モカ故ニ其程度ヲ區別セシムルニ違ハハ明瞭ナルヲ關ス

第四項 家資分散ニ關スル罪

昔時ハ單ニ債務ヲ辨濟セサルノミヲ以テ已ニ罪アルモノトシ刑罰ヲ加ヘタル
コトアルモ現今ハ何レノ國ニ於テモ債務ヲ辨濟セサルニ止マルモノハ單ニ威
失權ヲ來スノミニシテ犯罪ト爲ルコトナシ唯詐欺又ハ重キ過失アル場合ニ始
メテ罪ヲ構成スルモノトス

第三百八十八條ニ曰ク「家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増
加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス」
若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス」
第三百八十九條ニ曰ク「家資分散ノ際
藏匿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ
私徵シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以下二年以下ノ重禁錮ニ處スト」
此規定ハ以前民事上ノ無資力ト商事上ノ支拂停止トヲ區別セズ共ニ家資分散

ノ處分ニ付シタル當時ニ在リテハ民事上ノモノニモ商事上ノモノニモ適用セ
ラレタリシモ明治二十六年七月一日商法施行以來商事上ノ支拂停止ハ商法破
産ノ處分ニ付シ之ニ關スル犯罪ハ明治二十三年法律第一號ニ依リテ處斷セ
ラルルコトト爲リシヲ以テ現今ハ民事上ノ家資分散ニ關スル犯罪ニノミ適用
セラルルモノトス(民事上ノ家資分散ハ明治二十六年法律第六十九號家資分散
法ニ規定セラル)

法律カ茲ニ罪トシ規定スル所ノ所爲ハ(一)財產ヲ藏匿脱漏スルコト(二)虚偽ノ負
債ヲ増加スルコト(三)隱蔽類ヲ藏匿毀棄スルコト(四)債主中ノ一人又ハ數人ニ負
債ヲ私債スルコトノ四ニシテ第一乃至第三ハ家資分散ノ際ニ行ハレタルノミ
ヲ以テ罪ヲ構成スルモ第四ハ分散決定ノ後ニ行ハルルニ非スシテ罪ヲ構成セ
ス

(一)家資分散ノ際トハ事實分散セントシ又ハ分散シタル當時ヲ謂フ其事實果シ
テ分散セントシ又ハ分散シタルヤハ裁判官ノ判定ニ依ルモノトス人往往之ヲ
解レテ分散決定ノ前後ト曰ヒ以テ之ヲ民事ノ判決ニ關連セシメントスル者ア
リト雖モ大ナル誤ナリ蓋シ刑事ノ判決ハ民事ノ判決ニ臨東セラルルモノニ非

タルカ故ニ縱令終ニ民事ニ於テハ此決定ヲ爲サザリシ場合ト雖モ分散セント
スル事實アリト認メタル刑事ノ判決ハ法理上毫末ノ瑕疵ナキモノナレハナリ
(二)藏匿脱漏其ニ同一事ヲ意味ス犯人ノ方面ヨリ主觀的ニ言ヒタルト被害者ノ
方面ヨリ客觀的ニ言ヒタルト差アルノミ財產ヲ藏匿脱漏スルトハ現在有體財
產ヲ他ニ隠匿シ又ハ貸方財產ヲ購簿ニ記載セス以テ債權者ノ擔保ヲ剝奪スル
コトヲ謂フ(三)虚偽ノ負債ヲ増加スルトハ分散財團ノ分配ニ加入シテ債權者ヲ
害セシメンカ爲メ或ハ虚偽ノ負債ヲ記載セタル證書ヲ第三者ニ交付シ或ハ第
三者ニ虚偽ノ負債アルコトヲ隱蔽ニ記載スルカ如キコトヲ謂フ(四)隱蔽類トハ
積消兩極ノ資産ヲ知ルニ足ル一切ノ記録ニシテ貸借又ハ會計ニ關スル帳簿等
ヲ謂フ債權證書ハ財產ノ中ニ入ルヘキモノナルカ故ニ之ヲ包含セズ藏匿毀棄ハ
藏匿毀棄ト讀ムヘク藏匿シテ所在ヲ不明ナラシメ若クハ有形又ハ無形ニ毀損
シテ讀ムヘカラナラシムルヲ謂フ變造ヲ含マズ書寫遺り以テ論ズハ變造ハ文
字ヘクシテ認メサルカ故ニ無罪トス(五)債主中ノ一人又ハ數人ニ負債ヲ私債シ云

三(一)法文明瞭説明ヲ要セス

然ラハ何故ニ第一乃至第三ノ行為ハ家資分散ノ際之ヲ行フトキハ直チニ罪ヲ構成スルニモ拘ラス唯リ第四ノ行為ヲミ分散決定ノ後之ヲ行フニ非スルハ罪ヲ構成セサルヤ曰ク債務者ノ財産ハ總テノ債權者ノ擔保ナルカ故ニ之ヲ害スヘカラサルノ義務ハ常ニ之アラト雖モ平等支拂フ義務ハ分散決定以後ニ非テレハ生セザレハナリ

本罪ノ處分ニ付キ(一)家資分散ノ際財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ヲ重クシ(二)以下ノ重禁年分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シタル者ヲ輕ク(三)以下ノ重禁年シタル所以ハ犯人自ラ利セント欲スルノ意思アルト然ラサルトニ於テ主觀的犯意ニ輕重ノ差アルト同時ニ客觀的被害ノ結果ニモ亦輕重ノ差アルニ因リ財産ヲ藏匿シ脱漏シ又ハ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ヲ重クシ(四)簿類ヲ藏匿毀棄シタル者ヲ輕ク(五)以下ノ重禁年シタル所以ハ(一)ハ直チニ債權者ヲ害スルノ結果ヲ生スル行為タルト他ハ之ヲ害セントスルヲ手段タルニ止マリ必スシモ債權者ヲ害スルノ結果ヲ生スルキモノニ非サルト

シ差アルニ由ル(二)情ヲ知りテ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者下ハ家資分散ノ際虛偽ノ負債ヲ増加セント欲スル者タルコトヲ知りナカラ其依頼ヲ受ケ虛偽ノ債權アリト主張スルコトヲ承諾シタル者若クハ兩者ノ間ヲ周旋シタル者等ヲ謂フ而シテ其法律カ一等ヲ減シテ之ヲ罰ストルタル所以ハ主觀的ノ從犯(主觀的トハ無形上ト謂フ)後ニシテ客觀的ノ即チ犯タルカ故ニ事情ヲ斟酌シタルモノナラン然レトモ家資分散ノ際財産又ハ簿類ヲ藏匿スル者タルノ情ヲ知りナカラ其依頼ヲ受ケテ之ヲ寄藏シタル者ニ付テハ減等ノ明文ナキカ故ニ均シク客觀的犯罪行為ヨリ觀レハ共同正犯(犯罪ノ構成要素ニ加シテ正犯ニ非ス)ニシテ主觀的無形上ヨリ觀レハ從犯タルニモ拘ラス總則ノ適用ニ因リ正犯トシテ處斷セサルヘカサルノ結果兩者ノ間故ナク權衡ヲ失スルニ至ル恐ラク立法ノ錯誤ナラン(縱令本罪ハ均分ニ因リテ構成スヘキ犯罪ナレバ故ニ其構成要件ニモト云フノ說ヲ採ルモ亦反對ニ何故ニ虛偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ノ別ニ之ヲ罰スルモ亦反對ニ何故ニ共同正犯トシテ處斷セザルヲ得ス又曰ク人孰ハ財産ハ總テノ債權者ノ擔保ナルカ故ニ之ヲ害スヘカラサルノ義務ハ常ニ之アラト雖モ平等支拂フ義務ハ分散決定以後ニ非テレハ生セザレハナリトス

ニ對シテ該物以テ付テハ前ニ准シテ得ルハキ物件ニ關スル罪ヲ法律アルヲ知ルヘナリ(二)犯罪ニ因リテ不正ニ獲得シタル物件換言スレハ法律力ヲ獲得スルコトヲ不正ナリトシテ罰シタル罪ヲ犯スニ因リテ得タル物件タルコトヲ要スルカ故ニ彼ノ賭博富籤又ハ淫賣等法律カ其手段ノミテ不法ナリトシテ罰シタル罪ヲ犯スニ因リテ得タル物件ハ贓物ニ非ス(三)犯罪ニ因リテ獲得シタル物件換言スレハ犯罪構成ノ要素タル目的タルコトヲ要スルカ故ニ因リテ得タル目的物ニ代リタル物件例ハ盜品ヲ賣却シテ得タル金額ハ贓物ニ非ス(四)物ノ買價カ該物ナリト云フノ論ハ租ナリ原(四)然レトモ苟モ法律カ客觀的犯罪トシテ處罰シタル行為ニ因リテ得タル物件ナラシカ其犯人カ主觀的ノ事情如キ精神喪失ニ因リテ免刑セラルルト物件ノ動産タルト不動産タルト特定物タルト代替物タルトハ贓物タルノ性質ニ何等ノ影響ヲモ有スルコトナシ

第二ノ要素 犯罪ノ所爲ハ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタルコトヲ要ス

(二)受タルトハ授タル物ヲ領收スル行為ノ總稱ナルカ故ニ苟モ授タルニ依リテ

之ヲ占有シタル者ハ名義ノ如何ヲ問ハス皆茲ニ所謂受タル者タルカ如キモ法律力之ト相對シテ更ニ寄藏故買牙保等凡テ犯罪ノ結果ヲ保全シ以テ犯罪人ヲ利シ若クハ犯罪人ト共ニ己ヲ利スルノ行為ヲ列擧スルニ依リテ之ヲ觀レハ茲ニ受タルトハ無償ニテ之ヲ貰ヒ受ケ以テ犯罪ノ餘澤ヲ蒙ルコトヲ意味スルモノニシテ彼ノ修繕改造又ハ運搬等ノ努力ヲ施スカ爲メ單ニ之ヲ占有シタルニ過キナル者ノ如キハ之ヲ包含セザルモノト信ス(一)寄藏トハ寄託ヲ受ケテ之ヲ收蔵スルコトヲ謂フ(二)故買トハ交換販賣等廣ク有價名義ニテ之ヲ獲得スルコトヲ謂フ(四)牙保トハ讓渡人ト讓受人トノ間ニ在リ賣買ノ媒介ヲ爲スコトヲ謂フ賣買ノ媒介ヲ爲スコトヲ謂フカ故ニ賣買ヲ了リタルトキニ於テ完成スルモノトス

第三ノ要素 犯罪ノ意思ハ贓物タルノ情ヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲スノ意思アルコトヲ要ス

是レ總則ノ適用ニシテ別ニ說明ヲ要セス然ラハ強竊盜ノ贓物ナリト信シテ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル物件ヲ又ハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル物件ナリ

ト信シテ強竊盜ノ贓物ヲ受ケ又ハ寄賣故買シ若クハ牙保ヲ爲シタルトキハ如何ニ處分スヘキヤ人或ハ強竊盜ノ贓物タルコトヲ知テ又ハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テアリテ第三百九十九條ノ罪ヲ構成スル爲メニハ其物件カ強竊盜ノ贓物タルト同時ニ犯人ニ於テ其情ヲ知ルコトヲ要シ第四百一條ノ罪ヲ構成スル爲メニハ其物件カ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關スル物件タルト同時ニ犯人ニ於テ其情ヲ知ルコトヲ要スルカ如ク記載シアリヨリ本問ノ如キ意思ト目的物トノ投合セザル場合ハ明文ヲ缺クカ故ニ罪ヲ構成セスト云フ者アルヘシト雖モ法律カ「強竊盜ノ贓物タルコトヲ知テ又ハ詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルコトヲ知テ」下記載シタルハ單ニ處罰ヲ異ニセシカ爲メ處分ニ關スル條件ヲ掲ケタルモノニシテ犯罪ノ構成ニ關スル條件ヲ掲ケタルモノニ非サルカ故ニ本問ハ當然第七十七條第三項ヲ適用シテ處罰スヘキモノトス

處分ニ付テハ(一)目的物カ強竊盜ノ贓物ナルト其他ノ犯罪ニ關スル物件ナルトニ依リ刑罰ヲ異ニシ前ノ物ニ關スルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ト三回

以上三十回以下ノ附加罰金及ヒ六月以上二年以下ノ監視ニ處シ後ノ物ニ關スルトキハ十一月以上一年以下ノ重禁錮及ヒ二回以上二十回以下ノ附加罰金ニ處ス畢竟罪質ノ輕重ニ著眼シタルモノナルヘシト雖モ些カ杓子梳木ニ過クルノ嫌アリ(二)詐欺取財其他ノ犯罪トハ刑法第三編第二章財產ニ對スル罪ノミヲ謂フヤ將タ第二編ニ規定シタル收賄罪等ヲモ之ヲ包含スルヤ人或ハ本罪ノ財產ニ對スル罪ノ中ニ規定セラレザルヨリ財產ニ對スル罪ノミヲ謂フモノナリト曰フ者アリト雖モ明文何レノ處ニモ此ノ如キ制限ナキノミラス法理上ヨリ言ヘハ收賄罪ノ如キハ當然之ヲ包含セシメザルヘカラサルカ故ニ予ハ後段ノ決定ヲ採リテ第二編ニ規定セラレタル犯罪ヲモ包含スルモノトス然ラハ監守盜ハ茲ニ所謂強竊盜ニ屬スルヤ將タ其他ノ犯罪ニ屬スルヤ有力ナル反對論アルヘシト雖モ予ハ前ニ説明シタル如ク竊盜ニ屬スルモノト信ス(三)對ニ非キ以上我輩ハ本罪ノ構成並ニ處分ヲ説明シタルモノ尙ホ注意ノ爲メ一二問題ヲ説明セシム欲ス

一 苟モ贓物即チ犯罪ニ因リテ不正ニ獲得セラレタル物件タルコトヲ知リナ

カラ之ヲ受ケ又ハ寄藏シ得ルタルトキハ概令善意ニテ其所有權ヲ得タル者
 之ヲ受ケ又ハ寄藏シ得ルタルトキハ概令善意ニテ其所有權ヲ得タル者
 者ニ之ヲ返還スルノ義務ヲ免脱セザル間ハ尙ホ贖物者ルノ性質ヲ保有スルモ
 ノナルカ故ニ占有者カ真正ノ所有者ニ返還スルノ義務ヲ免脱シタル後ニ非
 レハ常ニ本罪ヲ構成スルモラトス
 二 本罪ノ或モノハ第五十二條ノ罪證隠蔽罪ト全ク相混同ス何ヲ以テ之ヲ
 區別スヘキヤ曰ク本罪ハ財産ニ對スル罪即チ自己又ハ他人ヲシテ財産上ノ利
 益ヲ得セシメントノ意思ニ出タル罪ニシテ罪證隠蔽罪ハ犯罪ヲ庇護セントシ
 意思ニ出タル罪ナルカ故ニ之ヲ以テ區別ノ標準トシ財産上ノ利益ヲ目的トス
 ルトキハ本罪ニ屬シ犯罪ノ庇護ヲ目的トスルトキハ罪證隠蔽罪ニ屬スルモ
 トス

第二節 財物ヲ毀損スル罪即チ他人ノ利益
 第十一條以下ノ一ヲ害セントノ意思ニ基ク罪
 第三十條以下ノ損滅罪ニ對シテハ第六百一十條以下ノ規定ニ依リテ之ニ屬ス

第一款 放火、失火罪

法律ノ規定ニ依レハ自己ノ家屋ヲ燒燬スルモ向ホ罪ヲ構成スルモノナラカ故
 ニ本罪ハ專ラ靜論ヲ害スル罪ノ中ニ入ルヘキモノニシテ其之ヲ財産ニ對スル
 罪ノ中ニ規定シタルハ蓋シ編纂ノ體ヲ失シタルモノトス
 本罪ハ第四百二條乃至第四百十條ノ規定ニ係リ法律ハ三種ノ犯罪ヲ規定セリ
 曰ク放火罪曰ク失火罪曰ク準放火及ヒ失火罪是ナリ

第一項 放火罪

本罪ハ第四百二條乃至第四百八條ノ規定ニ係ル
 第四百二條ニ曰ク火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス
 ト以下省略
 本罪ヲ構成スル爲メニハ下ノ要素ヲ必要トス(一)火ヲ放テテ燒燬シタルコト
 (二)家屋其他法律ノ規定シタル物件ニ係ルコト(三)火ヲ放テテ家屋其他法律ノ規
 定シタル物件ヲ燒燬スルノ意思ナルコト是ナリ

第一ノ要素火ヲ放テテ燒燬シタルコトヲ要ス

火ヲ放テコト及ヒ燒燬ノ何タルヤハ説明ヲ要セス、然レトモ如何ナル程度ニ達シタルトキニ於テ燒燬ノ行為ヲ遂ケタリトスヘキヲ換言スレハ燒燬ノ未遂ト既遂トノ區別如何トノ點ニ付テハ從來學說紛紛歸一スル所ヲ知ラス或ハ曰ク目的物タル家屋物件ニ傳火スヘキ媒介物ニ火ヲ移シタル時ヲ以テ既遂トス或ハ曰ク目的物タル家屋物件ニ傳火シタルトキヲ以テ既遂トス或ハ曰ク目的物タル家屋物件カ危險ナル有様ニ陥リタルトキヲ以テ既遂トス或ハ曰ク目的物タル家屋物件カ其原形ノ大部分ヲ失ヒタルトキヲ以テ既遂トスト果シテ孰レヲ以テ正鵠トスヘキヤ第二說ハ區畫明白喜フヘキモノナルヘシト雖モ一方ニ於テ刑罰極メテ嚴ナルト他人ノ一方ニ於テ火ヲ放テ人ノ家屋ヲ燒燬シタル者トアリテ目的物ノ存在ヲ亡失セシメタルコトヲ要スルカ如ク記載シテ依リテ之ヲ觀レハ第四說ニ依リ家屋ノ存在ヲ亡失セシメタルコトヲ要スルカ如クシムル程度ニ至ラズンハ既遂トスルコトヲ得ストスルヲ以テ

最も適當ナルモノト信ス(八)或ハ第四說ヲ主張シナカラ第四百六條山林ノ竹木田野ノ穀麥薪積シタル柴草竹木等ハ必スシモ分量ノ大小ヲ以テ區別スルコトヲ得タルカ故ニ一部分ト雖モ之ヲ燒燬シタルトキハ既遂ト謂ハサルヲ得ス唯裁判官ニ於テ酌量減輕ノ救済策ヲ行フノミト曰フ者アリト雖モ予ハ法文露積シタル柴草竹木ヲ語ニ據ラテ之ヲ知り得ヘキカ如ク所謂山林ノ竹木田野ノ穀麥ハ山林ニ在ル竹木田野ニ在ル穀麥ノ義ニ非ス山林又ハ田野ヲ成形スル竹木若クハ穀麥ノ義ニシ露積シタル柴草竹木ト共ニ皆或區域内ニ於テ一體ヲ成セル集合物ヲ意味スルモノナルカ故ニ家屋……ト同シテ原形ノ大部分ヲ燒燬シタル場合ニ非スンハ既遂タルコトヲ得スト思科ス但シ其果シテ大部分ヲ燒燬シタルヤ否ヤハ向ホ家屋……ト存在ヲ亡失セシメタルヤ否ヤト同シテ裁判官ノ判定ニ委スルモノトス

第二ノ要素 家屋其他法律ノ規定シタル物件ニ係ルコトヲ要ス

法律カ本罪ノ目的物トシテ列舉スルモノハ下ノ五種トス(一)家屋(二)建造物(三)厩屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎(四)船舶(五)山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積

(三)者共ニ家屋ト同シテ人ヲ乘載シタルモノト否トヲ區別ス詳言スレハ人ヲ乘載シタルモノニ付テハ自己ノ物ト雖モ本罪ノ目的ト爲リ人ヲ乘載セザルモノニ付テハ他人ノ物タル場合ニ限リ本罪ノ目的ト爲ル

五 山林ノ竹木田野ノ穀又ハ蠶積シタル柴草竹木其他ノ物件一體ヲ成形セタル物ヲ指スガ故ニ所謂其他ノ物件モ亦此意ヲ以テ適用スヘキモノトス

第三ノ要素 火ヲ放テテ家屋其他法律ノ規定シタル物件ヲ燒燬スルノ意思アルコトヲ要ス

總則ノ適用ニ過キスト雖モ疑ヲ絶テシカガ爲メ一二ノ注意ヲ爲サント欲ス

一 火ヲ放ツコトト燒燬スルコトトモ意思アルカ故ニ例ハ單ニ直チニ消火セシムルノ意思ヲ以テ人ヲ驚怖セシメンガ爲メ家屋ノ一部ニ放火シタル者ノ如キ縱令火ヲ放ツモ實際之ヲ燒燬スルノ意思ナキ者ハ本罪ヲ構成セズ意外ニモ家屋ヲ燒燬シタルトキハ失火罪ヲ構成スヘキノミ人ノ當道燒燬ニ然レトモ當然他ノ物ヲ燒燬スルニ至ルヘキコトヲ知リナカラ成物ヲ燒燬

スルノ意思ヲ以テ放火シタルトキハ他ノ物ヲモ燒燬スルノ意思アルモノニモ直接ニ放火シテ燒燬セシトシタル物ト他ノ物トヲ併セテ燒燬セタルトキハ既述ノ數罪俱發ト爲リ直接ニ放火シタル物ノミヲ燒燬セタルトキハ直接ニ放火シタル物ニ對スル既遂ト他ノ物ニ對スル未遂トノ數罪俱發トス

三 目的物ト意思トノ間ニ錯誤アリタルトキ例ハ自己ノ家屋ナリト信シテ他人ノ家屋ヲ燒燬セタルトキハ第七十七條第三項ヲ適用スヘキモノトス

處分ニ付テハ目的物ノ如何ニ因リテ異ナル人ノ住居シタル家屋ニ係ルトキハ死刑ニ處ス(第四〇二條)人ノ住居セザル他人ノ家屋及ハ建造物ニ係ルトキハ無期徒刑ニ處シ(第四〇三條)人ノ住居セザル自己ノ家屋ニ係ルトキハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ(第四〇七條)廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯ルル屋舎ニ係ルトキハ重懲役ニ處シ(第四〇四條)人ヲ乘載シタル船舶瀝車ニ係ルトキハ重懲役ニ處シ(第四〇五條)第一項人ヲ乘載セザル船舶瀝車ニ係ルトキハ重懲役ニ處シ(第四〇五條)第二項山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ蠶積シタル柴草竹木其他ノ物件ニ係ルトキハ輕懲役ニ處シ(第四〇六條)何レモ輕罪ノ利ヲ處スルトキハ六月以上二年

牢以下ノ監視ニ付(第四〇八條)別ニ說明スルキコトナシハ(六)以上ニ終(臨ミ)ノ問題アリ曰ク他人ヲ教唆シテ人ノ住居セザル自己ノ家ヲ燒燬セシメタル場合ニ於テ行為者及ビ教唆者ノ責任如何客觀的行爲其モノヨリ觀察スレム行為者ハ人ノ住居セザル他人ノ家ヲ燒燬キ教唆者ハ其行為ヲ教唆シタルモノナルカ故ニ共ニ第四百三條ヲ以テ處斷スヘキモノナリト云フノ說ハ法文ノ形式上ニ於テハ極メテ有力ナル說ナルニシト雖モ予ハ第四百三條第四百七條第四百九條ノ規定ハ殺人ノ謀故殺自殺ニ關スル罪及ビ過失殺ノ規定ト全ク同一ナルカ故ニ第四百三條ト第四百七條トノ關係ハ謀故殺ト自殺トノ關係ニ於ケルカ加シ主觀的放火ノ原因タル唯一ノ意思カ所有者ニ在ルカ將タ他人ニ在ルカニ依リテ區別シ所有者ニ在ルトキハ縱令所有者自ラ手ヲ下サスト雖モ之ニ關スル總テヲ犯人ハ第四百七條ノ罪ヲ犯シタルモノトスヘキモノニシテ本問放火ノ原因タル唯一ノ意思カ所有者自身ニ在ルカ故ニ第四百七條ノ罪ヲ屬シ行為者タル他人ハ正犯教唆者タル所有者ハ其教唆者トシテ處斷スヘキモノト論定セシメテ欲ス非カ

第二項 失火罪

第四百九條ニ曰ク火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒燬シタル者ハ二箇以上二十圓以下ノ罰金ニ處スルニシテ(一)火ヲ失スルコト即チ過失ニ因リテ火ヲ出シタルコト(二)人ノ家屋財產ヲ燒燬シタルコトトノ二要素ヲ以テ成立ス別ニ說明スヘキコトナシ唯左ノ四點ヲ注意セント欲ス(一)人ノ家屋財產トアリテ他人ノ所有物タルコトヲ要スルカ故ニ縱令買其他ノ原因ニ由リ他人ノ占有スル物ト雖モ自己ノ所有物ハ竊盜罪等ニ於ケルカ如ク特別ノ明文ナキカ故ニ本罪ノ目的物タルコトヲ得ス(二)財產トハ如何ナル輕微ノモノト雖モ之ヲ含メテ語ナズモ茲ニハ家屋財產トアリテ家屋ト對向セシメアルカ故ニ人ノ資產ヲ成形式ル多少重要ナル部分ヲ指テモノニシテ彼ノ第一本紙一枚ヲ燒燬シタルカ如キハ本罪ヲ構成スヘキモノト非ス事(第四百二十一條)入ルヘキモノナラシメテ目録ニ記載ス

三、過失犯ニシテ未遂犯ヲ所謂燒燬ノ前ニ說明シタルカ如ク目的物ノ原體ヲ
 亡失セシムルノ程度ニ達シタルコトヲ要スルカ故ニ大事ニ至ラズシテ止マ
 ルモノハ無罪トス
 四、欲ヲ入ラ殺傷シタルトキハ本罪ト過失殺傷罪トノ數罪俱發ヲ以テ論ス
 へキハ勿論ナラトス

第三項 準放火及ヒ失火罪

第四百十條ニ曰ク火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメ
 人ノ家屋財產ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分テ放火失火ノ例ニ
 照シテ處斷ス
 本罪ハ(一)火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメタルコト(放
 火失火ニ對向ス)(二)人ノ家屋財產ヲ毀壞シタルコト(燒燬ニ對向ス)(三)故意又ハ過
 失ニ出ラタルコトノ三要素ヲ以テ成立ス亦深ク説明ヲ要スヘキ點ナキカ故ニ
 要點ノミヲ括約シテ一二ノ注意ヲ爲スニ止ム

一、本罪ノ放火及ヒ失火罪ト異ナル所ハ犯罪ノ結果カ彼ハ燒燬ナルモ是ハ毀
 壞ナルニ在リテ其第四百十七條以下ノ犯罪ト異ナル所ハ彼ハ手段ト目的物ト
 ヲ制限セザルモ是ハ手段ヲ火藥其他激發スヘキ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破
 二、限ルト同時ニ目的物ヲ放火失火ト同シク人ノ資產ヲ組成スル多少重要ナル
 物ニ限ルノ點ニ在リ
 三、本罪所謂燒燬ハ放火及ヒ失火罪所謂燒燬ニ對向スルモノナルカ故ニ其既
 遂未遂ノ區別ハ放火及ヒ失火罪ノ例ニ依ルモノトス
 四、人ノ家屋財產トアリテ他人所有ノ物件ニ限ルカ故ニ放火罪ト異ナリ自己
 所有ノ家屋ニ係ルトキハ罪ヲ構成セス
 五、但シ明治十七年布告第三十二號爆發物取締規則第一條治安ヲ妨ケ人ノ身
 體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者……死刑ニ處ス
 規定アルカ故ニ本條ノ行爲中火藥其他激發スヘキ物品ヲ使用シタル者ハ本條

第二款 決水ノ罪

本罪モ亦放火失火罪ト同シテ靜謐ヲ害スル罪ノ中ニ列セラルヘキモノニシテ
 茲ニ規定シタルハ編纂ノ體ヲ失シタルモノトス
 本罪ハ第四百十一條乃至第四百十四條ヲ以テ成リ亦放火失火罪ニ於ケルカ如
 ク(一)有意ニ出ヅルモノト(二)無意ニ出ヅルモノトヲ規定ス
 甲 有意ノ場合

有意ノ場合ハ更ニ之ヲ(一)有形上物質ニ損害ヲ加ヘントノ意思ニ出ヅルモノト
 (二)無形上人ノ利益ヲ害シ又ハ自己ノ利益ヲ圖ラントノ意思ニ出ヅルモノトノ
 ニ分チ前者ハ之ヲ第四百十一條及ヒ第四百十二條ニ規定シ後者ハ之ヲ第四
 百十三條ニ規定ス此點ニ付キ或ハゴ氏佛文第二章案即チ現行法發布ノ後修正
 案トシテ「ゴ氏ノ起草シタルモノ」ニ毆打創傷罪ニ類シタル本罪ノ規定アルヨリ
 ンテ第四百十三條ハ明文ノ示スカ如ク堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スル意思

ノ外更ニ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルノ意思アルコトヲ要スルモ
 第四百十一條第四百十二條ハ毆打創傷罪ニ類シタル結果犯ナルカ故ニ單ニ提
 防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルノ意思アルノミヲ以テ足レリトシ必ズシモ他
 人ニ特定ノ損害ヲ加フルノ意思アルコトヲ要セス 評言スルハ故意ニ堤防ヲ決
 二他人ノ住居シタル東屋ヲ漏失セシムルノ結果ヲ生シタルトキハ第四百十一條
 ノ結果ヲ生シタルキハ其第二項ニ依リ重懲役ニ處シ田圃ノ墾殖等ノ如何ニ依リテ
 分チ異ト主張スル者アリト雖モ是レ大ナル謬見トス蓋シ現行法ノ淵源タル第
 一草案明治十年元法院ノ規定ヲ按ズルニ該草案ハ現行法ト全ク其體裁ヲ同
 シラシ現行法第四百十三條ニ該當スル其第四百五十九條ノ末文ニ「*Uta*
rentive de ce délit est punissable」本條ノ罪ノ未遂犯之ヲ罰スノ規定アリテ當
 然ノ推理上現行法第四百十一條及ヒ第四百十二條ニ該當スヘキ其第四百五
 十六條第四百五十七條ハ有意犯タルコトヲ示ス蓋シ然レバ自己ノ便益ヲ圖
 以上ハ之ヨリ向テ重大ナル結果ヲ生シタルノ行為目的ヲ以テテ堤防ヲ決潰シ
 水閘ヲ毀壞セントスルモノハ自ラ亦有意犯タルヲサスルヘカワラサルヲ謂フナリ

不定ノ意思ニシテ彼ノ人ノ死ヲ生スヘキコトアルコトヲ知リナカラ暗夜又ハ
 群衆ニ發砲シタルト同シク不測ノ結果ヲ生スヘキ自然力ヲ發生スヘキコトヲ
 知リナカラ之ヲ爲シタリト云フ行爲自體ノ上ニ於テ犯人ハ之ヨリ當然生スヘ
 キ結果ニ向ヒテ意思アリト謂フヘキモノ(換言セバ犯人自身モ亦其意思ナシト謂
 フコトヲ得サルモノ)ナルカ故ニ敢テ不明ナル事實ヲ認定スルノ要ナシ唯當然
 生スヘキ結果如何隨テ犯人ノ意思如何ヲ知ルニ付キ犯人暴動ノ性質ト之ヨリ
 害ヲ受クヘキ周圍ノ事情トノ關係ヲ詳ニ觀察スルノ要アルモノナレバナリ
 犯人ノ暴動ノ性質ト云フカ故ニ單ニ犯人ヲ害セシムルカ爲メ又ハ一時ノ戲言
 出テタルモノノ體テ一般ノ觀察上行爲其レ自體ハ凶重大ナル結果ヲ生
 シムヘキ性質ヲ有セサルニモ拘テ偶然ノ出来事ヨリ不慮ノ
 大事ニ至リ得ルモノハ之ヲ除外スルハカテハハ知ラサルハ勿論トス

第一 有形上物ヲ害セントノ意思ニ出ラタル場合即チ物件毀損罪
 第四百十一條ニ曰ク堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ
 漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失
 セシメタル者ハ重懲役ニ處ス(第四百十二條ニ曰ク堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ
 テ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス)

本場合ノ罪ヲ構成スル爲メニハ下ノ要素ヲ必要トス(一)堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞
 シテ物件ヲ漂失又ハ荒廢シタルコト(二)家屋其他法律ノ規定シタル物件ニ係ル
 コト(三)堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ家屋其他法律ノ規定シタル物件ヲ漂
 失若クハ荒廢スルノ意思アルコト是ナリ

第一ノ要素 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ物件ヲ漂失又ハ荒廢シタルコトヲ
 要ス

(一)堤防トハ水ノ溢出ヲ防禦スルカ爲メニ造ラレタル總テノ物件ヲ謂フ造ラレ
 タル物質ノ土ナルト石ナルト其他ノモノナルトヲ問ハス(二)水閘トハ水ヲ導引
 スルカ爲メニ造ラレタル物件ヲ云フ亦造ラレタル物質ノ何タルヲ問ハス(三)決
 潰ト毀壞トハ其ニ同一義ニシテ水ノ流出スヘキ程度ニ達シタル損傷ヲ謂フ唯
 目的物ヲ異ニスルカ故ニ文字ヲ異ニシタルノミ(四)家屋建造物ヲ漂失スルトハ
 家屋建造物ヲシテ其土地ニ定着シタル基礎ヲ離レテ水中ニ浮ハシメ以テ其原
 形ヲ亡失セシムルヲ云フ五田圃礦坑牧場等ヲ荒廢スルトハ田圃礦坑牧場等ノ
 原形又ハ風質ヲ亡失セシメ以テ用アルニ堪ヘテラシムルヲ謂フ(六)家屋田圃等

ヲ漂流荒廢セシムルハ必スシテ堤防ノ決潰水閘ノ毀壞ニ依ラヌト雖モ法律ハ此方法ニ限ルカ故ニ湖水ノ流出ヲ阻害シテ沿岸ノ家屋田圃等ヲ漂流荒廢シタル者ハ第四百十七條以下ニ依ルル外ナカラシ(七)漂流荒廢シタルコトヲ要スルカ故ニ單ニ家屋又ハ土地ヲ水中ニ没シタルニ止マルモノハ未遂犯タルヘシ

第二ノ要素ニ家屋其他法律ノ規定シタル物件ニ係ルコトヲ要ス(一)法律ノ規定シタル物件ハ(一)家屋建造物及ヒ(二)田圃礦坑牧場ノ二種トス(三)家屋建造物ハ(一)家屋ニ付テハ人ノ住居シタルモノト否ヲサレモノトヲ分チ(二)建造物ハ通常人ノ住居セザルモノナルカ故ニ人ノ住居セザル家屋ニ準ス但シ人ノ住居シタル場合ニ於テハ人ノ住居シタル家屋トス詳細ハ放火失火罪ニ於テ説明シタルカ故ニ之ヲ省ク

第三ノ要素ニ田圃礦坑牧場等(一)田圃礦坑牧場皆他人ノ物タルコトヲ要スルカ故ニ自己ノ田圃礦坑牧場等ニ係ルトキハ縱令他人カ其上ニ或權利ヲ有スル場合ト雖モ本罪ヲ構成セス(二)等トアルカ故ニ之ニ類シタル山林等此中ニ包含ス

右二種ノ物件ニ限ルカ故ニ建造物ト謂フヘカラサル廢屋又ハ柴草肥料等ヲ貯

フル屋舎及ヒ露積シタル柴草竹木其他ノ財産ニ係ルトキハ第四百十七條以下ニ依ルル外ナシ放火罪ノ規定ト權衡ヲ失スルノ嫌アリ

第三ノ要素ニ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ家屋其他法律ノ規定シタル物件ヲ漂流若クハ荒廢スルノ意思アルコトヲ要ス

(一)單ニ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞スルノ意思アルノミナラス進ミテ家屋其他法律ノ規定シタル物件タルコトヲ知リナカラ之ヲ漂流若クハ荒廢スルノ意思アルコトヲ要スルカ故ニ家屋其他法律ノ規定シタル物件ニ非スト信シタルニ家屋其他法律ノ規定シタル物件ナリシ場合及ヒ之ニ反對スル場合ハ第十七條第三項ノ適用ニ因リ本條又ハ第四百十七條以下ニ該リ漂流若クハ荒廢即チ物質的損害ヲ加フルノ意思ニ非スシテ單ニ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ即チ無形上ノ利益ヲ害シ又ハ之ヲ得ンカ爲メ隨テ單ニ水利ヲ害セントノ意思ニ出テタルトキハ第四百十三條ニ屬シ本罪ヲ構成セス(二)尚キ本罪ノ意思ノ實行ハ性質上自然力ヲ假リテ行ハルルモノニシテ往往目的物ニ對スル意思ハ不定ナルコトアルモ當然生スヘキ結果ニ對シテハ常ニ其結果ヲ

生セシムルノ意思アリトセザルヘカラサルコト前ニ詳説シタル所ナリ(三)漂流
 又ハ荒廢ノ意思アルコトヲ要スルモノニシテ或學者ノ主張スルカ如ク結果犯
 ニ非ス普通ノ有意犯ナルカ故ニ已ニ其意思ヲ以テ實行ノ端緒ニ臨ミタル後總
 則第百十二條ノ條件ヲ具備シタルトキハ第百十三條皆重罪ナルカ故ニ(二)依リ
 未遂犯ヲ構成スヘキモノトスルニ至ルベシ(四)他人ノ財產ニ對シテハ自己
 處分ニ付テハ(一)入ノ住居シタル家屋ヲ漂流シタルトキハ自己所有ノモノナル
 ト他人所有ノモノナルトヲ分タス無期徒刑ニ處シ(二)入ノ住居セザル家屋建造
 物ヲ漂流シタルトキ及ヒ田圃礦坑牧場等ヲ荒廢シタルトキハ自己所有ノモノ
 ト他人所有ノモノトヲ分テ他人所有ノモノニ限リ前者ハ重懲役ニ後者ハ輕懲
 役ニ處シ自己所有ノモノハ無罪トス此區別ヲ爲ス所以ハ一人ハ人ノ生命身體
 ニモ害ヲ生スルノ恐アルモ他ハ單ニ財產ヲ害スルノミナルニ由ル放火罪ト同
 シ(三)前ニ說明シタルカ如ク有意犯ニシテ何レモ重罪ナルカ故ニ其未遂犯
 ハ第百十二條及ヒ第百十三條ニ依リ各一等又ハ二等ヲ減シテ處斷ス
 第二 無形上ノ利益ヲ害シ又ハ自己ノ利益ヲ圖ラントノ意思ニ出テタル場

合即チ水利妨害罪

第四百十三條ニ曰ク(他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲メ堤防ヲ決潰
 シ水開テ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重懲罰ニ處シ
 二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス)

前ニ說明シタルカ如ク前二條ト異ナル所ハ犯人ノ意思カ堤防ノ決潰水開ノ毀
 壞ト云フコトヲ手段トシテ物質ヲ損傷セント欲スルニ在ルヲ將テ何等物質上ノ
 損害ヲ生セシムルノ意思ナク單ニ水ニ付テ他人カ享有スル所ノ便益ヲ損シ又
 ハ水ニ付テ享有スヘカラサル便益ヲ不正ニ圖ルコト換言スレバ單ニ水利ヲ妨
 害スルニ在ルカニ存スルモノニシテ更ニ他ノ語ヲ以テ之ヲ言ヘハ後ハ放火罪
 ト同シク水ヲ兇器用テテトシテ物質ヲ害スルノ罪此ハ水ニ依リテ事タル
 所ノ財産上ノ利益ヲ害シ又ハ不正ニ獲得セントスルノ罪タリ
 故ニ本罪ハ下ノ要素ヲ以テ構成スルモノトス(一)堤防ヲ決潰シ水開テ毀壞シ又
 ハ其他水利ヲ妨害シタルコト(二)他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルノ意
 思即チ水利ヲ妨害スルノ意思アルコト是ナリ左ニ重ナル要點ノミヲ説明ス(一)

一 堤防ノ決潰水閘ノ毀壞ハ第四百十一條第四百十二條即チ水ヲ兇器トシテ
 物質ヲ害スル行爲ニ於テハ犯罪ノ手段ニシテ其レ自身物質ヲ害スルノ行爲
 ニ非ナルカ故ニ其レノミハ單ニ未遂犯ノ所爲ヲ成形式スルニ過キスト雖モ本
 罪ニ於テハ其レ自身他人カ水ニ依リテ享クル所ノ便益即チ財產上ノ利益ヲ
 損シ又ハ水ニ依リテ享クル所ノ便益即チ財產上ノ利益ヲ不正ニ獲得スルノ
 行爲ニシテ亦其レ自身水利ヲ害スル行爲ナルカ故ニ既遂犯ノ所爲ヲ成形式
 ルモノトス水利妨害罪ノ重ナル一例タル所以ナリ

二 其他水利ヲ妨害スルノ行爲ハ枚擧スルニ勝ヘスト雖モ水車ノ用ニ供スル
 水ヲ堰キ止メテ其流通ヲ妨ク辭ノ所有地ニ灌溉スル用水ヲ自己ノ所有地ニ
 引キ入ルルカ如キ其重ナルモノトス

三 意思ニ付テハ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ルノ意思換言スレハ
 水利ヲ妨害スルノ意思即チ惡意アルコトヲ要スルカ故ニ縱令堤防ヲ決潰シ
 又ハ水閘ヲ毀壞スルモ堤防又ハ水閘ヲ修繕改築セント欲スルカ若クハ水害

ヲ避ケンカ爲メニシタルモノハ罪ヲ構成セザルモノトス

四 水利ヲ妨害センカ爲メ堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シタル結果人ノ住居
 シ若クハ住居セザル家屋建造物又ハ田圃礦坑牧場等ヲ漂流荒廢セシメタル
 者ノ處分如何前ニ説明シタル如ク其漂流荒廢カ當然避ケ得ヘカラサルモノ
 ニシテ犯人ノ之ヲ知レル場合ニ於テハ之ヲ漂流荒廢セシメントノ不定ノ意
 思アルモノナルカ故ニ本罪ト第四百十一條第四百十二條ノ罪トノ數罪俱發ヲ
 以テ論スヘク之ニ反スルトキハ本罪ト第四百十四條ノ罪トノ數罪俱發ヲ
 以テ論ス可キモノトス

乙 無意ノ場合

第四百十四條ニ曰ク「過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷
 ス」

(二) 法條ノ位地ト水利ノ妨害モ亦水害ノ一ナラスト謂フヲ得ストノ點ヨリ觀察ス
 レハ茲ニ所謂水害ヲ起シタル者トハ水利ノ妨害ヲ生セシメタル者ヲモ包含ス
 ルモノノ如シト雖モ通常水害ヲ文字ハ水ニ因リテ物質上ノ損害ヲ生シタル場

合ニミ用フルノ語ナルト失火ノ例ニ照シテ處斷ストアリテ失火ノ處分ハ家
 屋財産有形物ニ損害ヲ生シタル場合ニ限ルトニ依リテ之ヲ觀レハ過失ニ依
 テ出水セシメ因リテ人ノ家屋財産ヲ損害シタル場合ヲ削テモノシテ無形上
 ノ水利ノミヲ害シタル場合ヲ包含セサルモノトス(二)然ラハ其所謂財産ハ總テ
 ノ動産不動産ヲ含ムヲ將テ第四百十一條及ヒ第四百十二條ニ列記セタルニ
 限ルヤ又其損害ハ凡テノ損害ヲ含ムヤ將テ漂流荒廢ニ限ルヤ失火ノ例ニ照
 シテ處斷スルモノナルト同時ニ彼ノ燒燬ハ此ノ漂流荒廢ニ當ルトニ依リテ之
 ノ觀レハ財産ハ總テノ動産不動産ヲ含ミ損害ハ漂流荒廢ニ限ルモノトス(三)失
 火ノ例ニ照シテ處斷スルカ故ニ物ノ輕重大小ヲ問ハスニ關以上二十圓以下
 ノ罰金ニ處スルモノトス因リテ人ヲ殺傷シタル場合ハ本罪ト過失殺傷罪トノ數
 罪俱發ヲ以テ論スヘキト失火罪ニ於ケルカ如シ

第三款 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條ニ曰ク(衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル

者ハ死刑ニ處ス但船中死亡者ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス(第四百十六條ニ曰ク前
 條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載セタル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス)ト

本罪ノ規定ハ種ノテ簡單ナルカ故ニ重ナル點ノミヲ説明スヘシ

一 (一)衝突其他ノ所爲トアルカ故ニ船舶ニ發砲シ又ハ水雷艇若クハ水雷火ヲ
 放テ若クハ船體ニ穴ヲ穿テ等衝モ之ニ因リテ船舶ヲ覆没セシムルニ足ルヘキ
 モノハ皆之ヲ包含ス(二)船舶トアリテ大小形狀ヲ問ハサルカ故ニ荷モ船舶タル
 以上ハ如何ナル小船舶ト雖モ尙ホ本罪ヲ構成ス(三)覆没トハ顛覆及ヒ沈没ノ義ナ
 リ顛覆若クハ沈没ニ限ルカ故ニ暗礁又ハ淺瀬ニ乘リ上ケ船體遂ニ用ヲ爲サテ
 ルニ至ルモ未遂犯トシテハ格別既遂犯トシテハ本罪ヲ構成セス(四)衝突其他ノ
 手段ヲ以テ船舶ヲ覆没セシムルノ意思アルコトヲ要ス

二 處分ニ付テハ放水又ハ決水罪ニ於ケルカ如ク人ヲ乘載シタル船舶ニ對ス
 ルモノト否ラサルモノトヲ區別シ(一)人ヲ乘載シタル船舶ニ對スルトキハ犯人ノ
 所有ニ屬スルト否トヲ問ハス船中ニ死亡者アリタルトキハ死刑ニ處シ(毆打致
 死罪ノ條文ヲ引用スルカヲサレハ勿論トス)死亡者ナキトキハ無期徒刑ニ處ス

(二)人ヲ乘載セザル船舶ニ對スルトキハ財產ニ對スル罪ノ性質上特別ノ明文ナキトキハ他人ノ所有物ニ限ラサルヘカラサルカ故ニ他人ノ所有物ニ係ル場合ニ限り輕懲役ニ處シ犯人ノ所有ニ係ルトキハ縱令他人ノ物件ヲ乘載シタルモノニ對スル場合ト雖モ第百十七條以下ノ犯罪ト爲ルハ格別本罪ヲ構成セス

三 (一)第四百五條モ亦船舶ヲ目的トスト雖モ彼ハ燒燬シタル場合ヲ規定シ此ハ覆没シタル場合ヲ規定スルカ故ニ燒燬シタル場合ニ於テハ縱令之ニ因リテ覆没セシムルノ結果ヲ生スルモ彼ニ屬シテ此ニ屬セザルモノトス(二)第百六十九條モ亦船舶ヲ覆没シタル場合ヲ規定スルモ彼ハ因テトアリテ他ノ犯罪ニ附隨シタル當然ノ結果タル場合ヲ規定シ此ハ初メヨリ覆没セシムルノ目的アリシト否トヲ以テ區別スヘキモノトス詳言スレハ縱令第百六十五條又ハ第百六十六條ニ規定スル行爲ヲ行ヒ因リテ船舶ヲ覆没セシムルモ初メヨリ之ヲ手段トシテ船舶ヲ覆没セシメントノ特定ノ意思アルトキハ本罪ニ屬スルモノトス

注一 五條ニ對シテ中五二條七ノ初ハ燒燬罪ニ對シテ四百六十六條ニ對シテ

第四款 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

本罪ハ第四百十七條乃至第四百二十四條ニ規定スル所ノモノニシテ財物ヲ毀損スル罪ノ最モ尋常ナルモノトス然レトモ此點ニ付キ法律カ包括的ノ規定ヲ設ケスシテ種種拘子掘木のノ規定ヲ設ケテ以テ著シク裁判官ノ自由ヲ驅逐シタルハ他ノ規定ト共ニ發成スヘカラサル規定トス

第四百十七條ニ曰ク人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(第百四十八條ニ曰ク人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍地ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス第百四十九條ニ曰ク人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタルハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス(第四百二十條ニ曰ク土地ノ經界ヲ濫シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下

ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス第四百二十二條ニ曰ク「人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス第四百二十二條ニ曰ク「人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス第四百二十三條ニ曰ク「前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス第四百二十四條ニ曰ク「人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」

本罪ハ下ノ要素ヲ以テ構成ス(一)毀壞其他法律ノ規定シタル所爲ヲ爲シタルコト(二)家屋建造物其他法律ノ規定シタル物件ニ係ルコト(三)他人ノ利益ヲ害スル意思アルコト是ナリ

第一ノ要素 毀壞其他法律ノ規定シタル所爲ヲ爲シタルコトヲ要ス毀壞ノ外法律ノ規定シタル所爲ハ毀損毀棄滅盡屠殺移轉ノ五トス

一 毀壞 毀トハ凡ソ有形的物ノ實質ヲ傷害スルコトヲ壞トハ人力又ハ自然

力ニ依リテ結合セラレタル物件ヲ強テ解放スルコト換言スレハ物體ヲ結合シタル力ノ作用ヲ非常手段ニ依リテ滅却スルコトヲ謂フモノナルカ故ニ茲ニ毀壞トハ例ヘハ家屋若クハ建造物ノ家根又ハ家屋ニ屬スル牆壁等ヲ破損スル等人力又ハ自然力ニ依リテ組成セラレタル物件ノ一部又ハ全部ヲ強テ解放シ以テ之ヲ傷害スルコトヲ意味シ彼ノ白墨ニ墨ヲ塗リ又ハ屋壁ニ落書ヲ爲シテ家屋若クハ建造物又ハ牆壁ノ實質ヲ汚損シタルカ如キ物ノ實質ヲ解放シテ傷害セサルモノハ之ヲ包含セザルモノトス

二 毀損 損トハ毀ヨリモ廣ク凡ソ有形又ハ無形ノ損害ヲ物ノ實質ニ加フルコトヲ謂フモノナルカ故ニ茲ニ毀損トハ植物ヲ引キ抜キ伐リ仆シ毀傷シ又ハ其生活力ヲ害スル等凡ソ有形又ハ無形ニ物ノ實質ヲ害スルコトヲ謂フモノトス

三 毀棄 棄トハ廢棄シテ其用ヲ失ハシムルコトヲ謂フモノニシテ毀棄トハ例ヘハ諸般ノ器具ヲ破損シ若クハ證書類ヲ引キ裂タカ如キ有形的ニ物ノ實質ヲ傷害シ又ハ記載ノ事項ヲ塗抹シテ證書ノ效用ヲ失ハシムルカ如キ無形上物

ヲ廢棄シテ其用ヲ失ハシムルコトヲ謂フ
 四 滅盡 トハ證書ヲ火中スルカ如キ物ヲ滅却シテ其形體ヲ留メテナラシムルヲ謂フ
 五 屠殺 殺スコトヲ要ス殺スノ意思アルコトヲ要スルカ故ニ初メヨリ單ニ傷害セシトノ意思アルニ過キサルモノハ之ヲ包含セス
 六 移轉 トハ物ノ所在ヲ變更セシムルヲ謂フ
 第二ノ要素 家屋建造物其他法律ノ規定シタル物件ニ係ルコトヲ要ス
 家屋建造物ノ外法律ノ規定シタル物件ハ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄稼穡竹木其他需用ノ權物土地ノ經界ヲ表シタル物件器物牛馬其他ノ家畜及ヒ權利義務ニ關スル證書ノ六種トス
 一 家屋其他ノ建造物 家屋建造物ノ何カハ更ニ說明ヲ要セズ
 (二)人ノ家屋建造物トアリテ他人ノ所有ニ係ルコトヲ要スルカ故ニ自己ノ所有ニ係ルトキハ屢ニ說明シタルカ如ク輕哈他人カ其上ニ質權抵當權若シハ質借權等ヲ有スル物ト雖モ本罪ヲ構成セズ(三)家屋又ハ建造物ニ附著シテ之ト一體ヲ

成セル造作ハ固ヨリ家屋建造物ノ一部タルヘシト雖モ彼ノ農建具等家屋又ハ建造物ニ附屬スルモノニ附著セテ一體ヲ成サザルモノハ家屋又ハ建造物ノ一部トスルコトヲ得ズ
 二 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ圍池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊園牧場ノ柵欄(一)家屋ヲ組成スル牆壁ハ家屋ノ一部ニシテ之ニ對スル行為ハ家屋ニ對スルモノナラカ故ニ茲ニ家屋ニ屬スル牆壁トハ家屋自體ニ非ズシテ之ニ屬スル牆壁即チ家屋ノ外部ニ在ル牆壁ノ類ヲ謂フ(二)一體ヲ成セル門モ亦之ヲ包含スルモノト(三)牆壁トシテミアラテ其物質ヲ限ラサルカ故ニ生垣竹垣ノ如キモノト雖モ仍ホ之ヲ包含スルモノトス(四)家屋ニ屬スル牆壁トアリテ建造物ヲ言ハスト雖モ畢竟省略シテ家屋ノ内ニ包含セシメタルモノトス(五)圍池ノ裝飾トハ庭石燈籠等土地ニ定著シテ圍池ノ裝飾ヲ爲セルモノヲ謂フ(六)田圃ノ樊園牧場ノ柵欄トノミアリテ他ノ法條ト異ナリ等ノ字ナキハ恐ラク缺文ニシテ此文字ナキカ故ニ例ヘハ家屋又ハ建造物ナキ運動場外圍山林又ハ養鷄場等ノ樊園柵欄ニ對スルモノハ第四百十八條ヲ以テ論スルノ限ニ在ラズ

判決各論 農林建設ニ對スル裁判例 附屬ニ對スル裁判例

三 稼穡竹木其他需用ノ植物(一)稼穡トハ總テノ耕作物ヲ意味ス(二)竹木トハ如何ナル物ヲ云フヤ換言スレハ特ニ殖産其他研究等ヲ爲メニ培養セラルル物ノミヲ云フヤ將タ庭前ノ竹木ヲモ包含スルヤハ需用ノ解釋如何ニ依リテ定マル若シ之ヲ以テ雜草荆棘等ト區別セシカ爲メノ語ニ過キストセハ庭前ノ竹木ト雖モ仍ホ之ヲ合ミ殖産其他研究ノ爲メ特ニ培養シタル植物ヲ意味シ一般裝飾又ハ娛樂ノ爲メニ植付ケタル植物ト區別セシカ爲メノ語ナリトセハ庭前ノ竹木等ハ之ヲ含マス稼穡ト對向セシムアルト雜草荆棘ト區別スル爲メトスレハ故ラニ需用ト云フカ如キ文字ヲ用フルノ必要ナキトニ依リ後者ノ意義ニ解釋スヘキモノニシテ所謂竹木ハ殖産其他研究ノ爲メ等格別ニ培養セラルルモノヲ意味スルモノト信セラル

四 土地ノ經界ヲ表シタル物件(一)土地ノ經界トアリテ水上ノ經界ヲ合マテルカ如シト雖モ水上ノ經界ハ同時ニ土地ノ經界ナルカ故ニ之ヲ包含スルモノトス(二)單ニ物件トアルカ故ニ土手ノ如キ移轉スヘカラザルモノヨリ一片ノ標木マテラ包含ス毀壞ト移轉ノ文字アル所以トス

五 器物ノ通俗ノ意味ニ於テハ農衣類夜具文書盆栽又ハ動物等ヲ包含セズ且雖モ茲ニ所謂器物トハ此ニ規定セラレザル總テノ動産ヲ意味スルモノト云フコトニ解釋一致ス

六 牛馬其他ノ家畜ノ牛馬ニ付テハ説明ヲ要セス其他ノ家畜トハ豕羊犬猫兎鵝等ハ人ニ類ラスンハ生活スルコト能ハサル動物ヲ云フモノニシテ臨時見世物トスルカ爲メニ飼養スル象虎猿等ノ如キハ所謂器物ノ中ニ入ルヘキモノニシテ茲ニ包含セラレザルモノト信ス

七 權利義務ニ關スル證書類 第二百十條第一項ニ於テ説明シタル如ク權利義務ヲ證明スルノ目的ヲ以テ作製セラレタル一切ノ書類ヲ謂フ權利義務ヲ證明スルノ目的ヲ以テ作製セラレタルモノニ限ルカ故ニ書翰帳簿又ハ一箇人カ有スル官ノ辭令書等ハ亦所謂器物ノ中ニ入ルヘキモノトス

以上列舉スル所ノ物件ニ限ルコトヲ要スルカ故ニ此以外ノ物ニ係ルトキハ本罪ヲ構成セス然リ而シテ法律ノ規定ハ極メテ粗雜ナルカ故ニ遺漏甚タ多シハ枚舉ニ違アラズ到底修正ヲ免レザル規定トス

第三ノ要素 他人ノ利益ヲ害スルノ意思アルコトヲ要ス

此意思アルコトヲ要スルハ財産ニ對スル犯罪タルカ故ナリ(一)之アルコトヲ要スルカ故ニ例ヘハ好意ニテ隣家ノ牆壁ヲ修繕セシムルカ爲メ之ヲ毀損シ又ハ他人ノ樹木ニ手入ヲ爲サシムルカ爲メ其杖ヲ伐リ拂ヒタルカ如キハ到底本罪ヲ構成セス(二)然レトモ茲ニ所謂他人ノ利益ヲ害スルノ意思トハ他人ノ損害ト爲ルヘキコトヲ知リナカラ敢テ法律ノ豫見シタル行爲ヲ爲スノ意思アルコトヲ意味シ必スシモ他人ノ損害ヲ希望スルコトヲ要セザルカ故ニ例ヘハ自家ノ室内ニ光線ヲ引カンカ爲メ隣家ノ樹木ヲ伐リ透シタルカ如キハ當然有罪トス(三)然ラハ土地ノ經界ヲ表シタル物件ニ關スル所爲ニ付テモ亦然ルカ曰ク此點ニ付キ人感ハ經界ヲ不明ナラシムルノ意思アルニ非ズンハ罪ヲ構成セスト思料スル者アルヘシト雖モ法律ハ此目的ヲ要スルコトヲ規定セザルノミナラス經令經界ヲ不明ナラシムルノ意思ナクシテ之ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉スルモ茲ニ經界ヲ不明ナラシムルノ實害ヲ生スヘキモノニシテ十分責罰ノ價值アルヘキモノナルカ故ニ此罪ニ付テモ亦單ニ情ヲ知リ意ヲ以テスルノミヲ以テ足

レリト確信ス

處分 處分ニ付テハ要點ノミヲ説明スヘシ(一)家屋ニ付テ放火罪及ヒ決水罪ニ於テハ人ノ住居シタル家屋ニ對スル場合ト否トヲ分チ人ノ住居シタルトキハ放火罪ニ於テハ死刑ニ處シ決水罪ニ於テハ無期徒刑ニ處スト雖モ本罪ニ於テハ畜ニ之ヲ分タサルノミナラス人ヲ死傷ニ致シタル場合ニノミ限リ毆打創傷ノ各本條ニ照シテ重キニ從テ畢竟行爲ヨリ生スル危險ノ程度ニ著目シテ附酌シタルモノナルヘシ(二)第四百十八條第四百十九條及ヒ第四百二十一條等ニ又ハトアリテ裁判官ニ刑ノ選擇ヲ許シタルハ目的物ノ價值ニ大ナル懸隔アリテ上千金ヲ價スルモノヨリ下數錢ニモ値セザルモノアルカ故ナリ(三)經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞又ハ移轉シタル者ノ刑比較的ニ重キハ被害小ナラサルニ因ル(四)牛馬以外ノ家畜ヲ殺シタル罪ヲ親告罪トシタルハ草案者ノ説明スルカ如ク犯罪ノ輕微ナルト舉證ノ困難ナルトニ由ルト云フニ在ラン

第二編 違警罪

法律學

刑 法 各 論

著者 土 澤 本 三 郎 著

三十三頁

刑法各論目次

緒 論	一
第一章 各論ノ必要	一
第二章 重罪、輕罪、違警罪ノ區別	三
第三章 公罪、私罪ノ區別	一〇
第一編 公益ニ關スル重罪、輕罪	二二
第一章 皇室ニ對スル罪	二四
第一節 危害罪	二五
第二節 不敬罪	三八
第二章 國事ニ關スル罪	四八
總 論	四八
第一節 内亂ニ關スル罪	六〇
第一款 内亂罪	六一

刑法各論目次

第一章 成立要素……………六一

第一項 第二百一十一條ノ罪……………六一

第二項 第二百二十二條ノ罪……………六八

第三項 第二百二十三條ノ罪……………八二

第二章 未遂豫備陰謀及ヒ自首……………九五

第一項 未遂……………九五

第二項 豫備……………九八

第三項 陰謀……………九九

第四項 自首……………一〇〇

第三章 内亂罪ノ處分……………一〇三

第一項 第二百一十一條ノ罪ノ處分……………一〇三

第二項 第二百二十二條ノ罪ノ處分……………一〇八

第三項 第二百二十三條ノ罪ノ處分……………一一〇

第四項 未遂豫備陰謀及ヒ自首ノ處分……………一一四

第二章 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル罪……………一一八

第三款 内亂ニ乘シ内亂ノ目的以外ニ於テ人ノ身體財産ニ對シテ犯シタル重罪輕罪及ヒ其處分……………一二二

第二節 外患ニ關スル罪……………一二七

第一款 背叛罪……………一二八

第一項 本國ニ抗敵スル罪……………一二八

第一段 成立要素……………一三〇

第二段 處分……………一四〇

第二項 敵國ヲ幫助スル罪若クハ敵國ニ内應スル罪……………一四一

第一項 第三百三十條ノ罪……………一四二

第二項 第三百三十一條ノ罪……………一四四

第三段 第三百三十二條ノ罪……………一四七

 第二款 外患ノ誘引ヲ成形スル罪……………一五〇

 第一款 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開クノ罪……………一五一

 第二款 局外中立ノ布告ニ違背シタル罪……………一五四

附 款 本節ノ規定ハ之ヲ外國人ニ適用スルコト
 ヲ得ヘキヤ……………一五八

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪……………一六三

 第一款 暴動ヲ爲シタル罪……………一六五

 第二款 暴動ヲ謀リタル罪……………一六八

 第三款 暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家屋船倉庫
 等ヲ燒燬シタル罪……………一七五

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪……………一八二

 第一款 官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪……………一八三

 第一項 成立要素……………一八四

 第一段 第三百二十九條第一項ノ場合……………一八四

 第二段 第三百二十九條第二項ノ場合……………一九八

 第二項 處分……………二〇三

 第二款 官吏ノ職務ニ對スル侮辱ノ罪……………二〇四

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪……………二一一

 第一款 囚徒ノ逃走スル罪……………二一一

 第一項 成立要素……………二一一

 第一段 單純逃走ノ場合……………二一一

 第二段 複雜逃走ノ場合……………二二一

 第二項 處分……………二二四

 第二款 囚徒ヲ逃走セシメタル罪……………二二八

 第一項 監督ノ職責ナキ者ノ犯シタル場合……………二二九

 第二項 監督ノ職責アル者ノ犯シタル場合……………二三三

第三款	犯罪ヲ庇陰スル罪	二二三
第一項	罪人ヲ隠匿シ若クハ隠避スル罪	二二三
第二項	罪證ヲ隠蔽スル罪	二四一
第四節	附加刑ノ執行ヲ通ルル罪	二四三
第五節	私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪	二四四
第六節	往來通信ヲ妨害スル罪	二四七
第七節	人ノ住所ヲ侵スル罪	二四七
第八節	官ノ封印ヲ破棄スル罪	二五五
第九節	公務ヲ行フヲ拒ムル罪	二五九
第一款	出兵ノ要求ニ應セザル罪	二六〇
第二款	徵兵ヲ忌避スル罪	二六五
第三款	解剖分析鑑定又ハ證言ヲ背セザル罪	二七二
第四款	傳染病ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述ス	二八四

第四章 信用ヲ害スル罪

ルコトヲ背セザル罪

總論	二七六	
第一節	貨幣ヲ偽造スル罪	二八〇
第一款	成立要素	二八三
第二款	處分	二八四
第二節	官印ヲ偽造スル罪	二八四
第一款	官印ノ偽造ニ關スル罪	二八四
第一項	官印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用スル罪	二八二
第二項	官印ノ影贋ヲ盗用スル罪	二八八
第二款	各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ノ偽造ニ關スル罪	二九一
第一項	各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造又ハ使用スル罪	二九一
第二項	造又ハ使用スル罪	三五一

第二項 各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用スル罪……………三五四

附 款 本節ノ各罪ニ共通ノ規定……………三五六

第三節 文書ヲ偽造スル罪……………三五七

第一款 文書偽造罪ノ一般ノ成立要素……………三五九

第二款 文書偽造罪ノ體様者クハ各種ノ文書偽造罪……………三九七

第一項 官ノ文書ヲ偽造スル罪……………三九八

第一段 官文書偽造罪……………三九八

第二段 官文書毀棄罪……………四〇九

第二項 私印私書ヲ偽造スル罪……………四一三

第一段 私文書偽造罪……………四一三

第二段 私印偽造罪……………四二四

第三項 特殊ノ官私文書ヲ偽造スル罪……………四三五

第一段 免狀鑑札ヲ偽造スル罪……………四三七

第二段 疾病證書ヲ偽造スル罪……………四四二

第四節 偽證罪……………四四七

第一款 成立要素……………四四八

第二款 處分……………四六三

第一項 刑事ニ關スルモノノ處分……………四六四

第一段 被告人ヲ曲庇セント欲スル意思ニ出テタル場合……………四六四

第二段 被告人ヲ陷害セント欲スル意思ニ出テタル場合……………四六八

第二項 民事商事行政裁判ニ關スルモノノ處分……………四七三

第三項 刑事ト民事商事行政裁判トニ共通スル規定……………四七四

第五節 度量衡ヲ偽造スル罪……………四八二

第六節 身分ヲ詐稱スル罪……………四八八

第一款 官署ニ對シテ屬籍身分ヲ詐稱スル罪……………四八八

第二款 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若ク

ハ内外國ノ勳章ヲ借用スル罪……………四九二

第七節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪……………四九三

第五章 健康ヲ害スル罪……………四九七

第一節 阿片烟ニ關スル罪……………四九七

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪……………五〇〇

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪……………五〇二

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害スヘキ物品製造ノ規則

ニ關スル罪……………五〇三

第五節 健康ヲ害スヘキ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル

罪……………五〇五

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪……………五〇六

第六章 風俗ヲ害スル罪……………五一〇

第一節 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ猥褻ノ物件ヲ陳

列販賣スル罪……………五一〇

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……………五一四

第一款 賭博ニ關スル罪……………五一五

第一項 財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル罪……………五一六

第二項 賭博ノ情ヲ知ラテ房屋ヲ給與シタル罪……………五三〇

第三項 賭場ヲ開設シ又ハ博徒ヲ招結シタル罪……………五三一

第二款 富籤ニ關スル罪……………五三三

第三節 信教ニ對スル罪……………五三八

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪……………五四一

第一節 死屍ヲ毀棄スル罪……………五四二

第二節 墳墓ヲ發掘スル罪……………五四五

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪……………五四八

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第一款 物品ノ賣買ヲ妨害シタル罪……………五四九

第二款 雜賣又ハ入札ヲ妨害シタル罪……………五六〇

第二節 農工業ノ妨害ニ關スル罪

第一款 農工ノ業ヲ妨害スル罪……………五六五

第二款 雇賃ヲ増減セシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變
セシメントスル罪……………五六七

第三款 衆人需用ノ物品ノ價値ヲ昂低セシムル罪……………五七八

第一節 官吏公益ヲ害スル罪……………五八二

第一款 法律規則ヲ公布施行セシメ又ハ其公布施行
ヲ妨害スル罪……………五八六

第二款 兵權ヲ以テ鎮撫スヘキ場合ニ於テ其處分
ヲ爲ササル罪……………五八七

第三款 規則ニ違背シテ商業ヲ爲ス罪……………五八九

第二節 官吏人民ニ對スル罪……………五九〇

第一款 官吏威權ヲ濫用スル罪……………五九〇

第二款 人ノ身體財産ヲ妨害スル犯人アルニ當リ
保護ノ處分ヲ爲ササル罪……………五九一

第三款 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁スル罪……………五九七

第四款 囚人ヲ虐待スル罪……………六〇五

第五款 拷問ヲ爲ス罪……………六〇八

第六款 裁判ヲ爲ササル罪……………六〇九

第七款 賄賂ニ關スル罪……………六一一

第一項 官吏收賄罪ノ成立要素……………六一六

第二項 官吏收賄罪ノ處分……………六二二

第八款 枉法ノ罪……………六二四

第三節 官吏財産ニ對スル罪……………六二五

第二編 身體、財産ニ對スル重罪、輕罪

第一章 身體ニ對スル重罪、輕罪

第一節 殺人ノ罪

- 第一款 殺人罪ノ成立要素.....六三七
- 第二款 殺人罪ノ體性若クハ各種ノ殺人罪.....六四一
- 第一項 故殺及ヒ謀殺.....六四一
- 第二項 毒殺.....六四三
- 第三項 虐殺.....六四五
- 第四項 牽聯故殺.....六四七
- 第五項 誘導殺人.....六五〇
- 第六項 誤殺.....六五五
- 第二節 傷人ノ罪毆打創傷ノ罪.....六七〇

第一款 成立要素

- 第二款 處分.....六七一
- 第一項 普通處分.....六七七
- 第二項 特別處分.....六八三

第三節 殺傷ニ關スル特別ノ規定

- 第一款 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不諭罪.....六九一
- 第一項 殺傷ニ關スル宥恕若クハ挑發ヲ原因トシタル殺傷罪.....六九二
- 第二項 殺傷ニ關スル不諭罪.....七一〇
- 第一段 正當防衛.....七一〇
- 第二段 正當防衛ニ似テ非ナル行為ニ關スル規定.....七二八

- 第二款 過失殺傷罪.....七二九
- 第三款 自殺補助罪.....七三八

第四款 決闘罪……………七四七

第四節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪……………七五二

第五節 脅迫ノ罪……………七五五

第六節 墮胎ノ罪……………七六〇

第七節 幼者老疾者ヲ遺棄スル罪……………七七五

第八節 幼者ヲ略取誘拐スル罪……………七八二

第九節 猥褻姦淫重婚ノ罪……………七九一

第一款 猥褻ノ罪……………七九一

第二款 淫行ヲ勸誘シテ媒合スル罪……………七九三

第三款 強姦ノ罪……………七九六

第四款 姦通ノ罪……………八〇二

第五款 重婚ノ罪……………八一三

第十節 誣告及ヒ誹毀ノ罪……………八一五

第一款 誣告ノ罪……………八一六

第二款 誹毀ノ罪……………八二一

第三款 陰私誦告ノ罪……………八三四

第十一節 祖父母父母ニ對スル罪……………八四一

第二章 財産ニ對スル重罪、輕罪……………八四七

第一節 財物ヲ横奪スル罪即チ汚廉ノ念ヲ缺クニ基
キテノ罪……………八五三

第一款 盜罪……………八五三

第一項 竊盜罪……………八七二

第一段 普通竊盜……………八七一

第二段 加重竊盜……………八七七

第二項 強盜罪……………八八四

第一段 普通強盜……………八八六

第二段 加重強盜……………八九〇

第三項 恐喝取財ノ罪……………八九八

第四項 詐欺取財ノ罪……………九〇八

第一段 所謂詐欺取財ノ罪即チ第三百九十條ノ場合……………九〇八

第二段 準詐欺取財罪……………九〇六

第二款 横領罪……………九一九

第一項 冒認罪……………九一九

第二項 委託物費消罪……………九三〇

第一段 所謂委託物費消罪即チ第三百九十五條ノ場合……………九三一

第二段 準委託物費消罪……………九四五

第三項 遺失物埋藏物ニ關スル罪……………九四五

第四項 家資分散ニ關スル罪……………九五五

第三款 盜罪ト横領罪トニ共通スル附隨ノ罪即チ八三四條ニ關スル罪……………九六〇

第二節 財物ヲ毀損スル罪(即チ單ニ他人ノ利害ヲ害セントノ意思ニ基ク罪)

第一款 放火失火罪……………九六七

第二項 放火罪……………九六七

第二款 失火罪……………九七五

第三項 準放火及ヒ失火罪……………九七八

第二款 決水ノ罪……………九九〇

第三款 船舶ヲ覆没スル罪……………九九〇

第四款 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪……………九九三

第三編 違警罪……………一〇〇一

刑法各論目次 終

帳簿等目次

一六

第三章 警察官

一〇〇一

第一條 警察官ニシテ...

第二條 警察官ノ職務...

第三條 警察官ノ懲罰...

第四條 警察官ノ退職...

第五條 警察官ノ懲戒...

第六條 警察官ノ懲戒...

第七條 警察官ノ懲戒...

第八條 警察官ノ懲戒...

第九條 警察官ノ懲戒...

第十條 警察官ノ懲戒...

第十一條 警察官ノ懲戒...

第十二條 警察官ノ懲戒...

第十三條 警察官ノ懲戒...

第十四條 警察官ノ懲戒...

第十五條 警察官ノ懲戒...

第十六條 警察官ノ懲戒...

第十七條 警察官ノ懲戒...

第十八條 警察官ノ懲戒...

第十九條 警察官ノ懲戒...

第二十條 警察官ノ懲戒...

第二十一條 警察官ノ懲戒...

第二十二條 警察官ノ懲戒...

第二十三條 警察官ノ懲戒...

第二十四條 警察官ノ懲戒...

第二十五條 警察官ノ懲戒...

第二十六條 警察官ノ懲戒...

第二十七條 警察官ノ懲戒...

第二十八條 警察官ノ懲戒...

第二十九條 警察官ノ懲戒...

第三十條 警察官ノ懲戒...

第三十一條 警察官ノ懲戒...

第三十二條 警察官ノ懲戒...

第三十三條 警察官ノ懲戒...

第三十四條 警察官ノ懲戒...

行政法 行政官制 警察官制

二七九

「ス傳染病毒ニ汚レタル物ハ消毒後ニ非ナレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
古物商ハ賣主ニ讓渡主ヲ帳簿ニ記載スヘシ住所氏名ノ詳オラサル者ハ證人ヲ要
ス又賣主讓受主モ之ヲ詳ニスルヲ得タルトキハ記載スヘキモノトス警察官ハ
犯罪病毒遺失物等ノ理由ニ因リ帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ物品ノ差押ヲ爲
スコトヲ得遺失物贖物ハ之ヲ徵收シテ被害者ニ還付シ被害者知レナレハ一定
ノ期間後被徵收者ニ返還ス

古物商カ法令ニ反シタルトキ及ヒ必要アリシトキハ行政廳ハ營業ヲ禁止シ又
ハ停止スルコトヲ得此處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ營業シ又古物商
ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス
以上述ヘ來リタル所ハ他ノ營業者ニシテ隨時其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換
スル者例ヘハ呉服金物小間物書籍等ノ商人ニ對シテ之ヲ適用スルモノトス
丁 賣物營業ニ關スル警察 賣屋營業ヲ爲サントスル者ハ免許ヲ要ス支店ヲ
設ケルトキモ亦同シ廢業シタルトキハ届出ツヘキモノトス凡ソ賣屋ハ店舗外
ニ營業ヲ爲スコトヲ得ス賣物ニ不正品ヲ發アレハ警察官ニ申告スルモノト

ス贓物ニ對シテ發スル警察官ノ品觸及ヒ傳染病毒ニ汚染シタル物品ニ關シテハ古物商ニ對スル制限ト同一規定ニ從フ由リキニシテハ買取ルハ買取ル者ハ帳簿ヲ備ヘ買契約及ヒ贓物處分ニ關スル事項ヲ記載スヘキモノトス且ツ贓物主ノ住所氏名ヲ明カニセサルヘカラス若シ詳ナラサルトキハ證人ヲ要ス

買屋ハ利子割合流質期限贓物ノ災難ニ罹リタルトキノ處辨方及ヒ贓物出入時間ヲ明カニ揭示スヘシ而シテ利子ニ關シテハ法定ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス且ツ贓物ハ之ヲ使用シ若クハ貸付スヘカラス但シ轉賣ハ必要ノ場合ニミ命令ヲ以テ制限又ハ禁止スルモノトス

警察官ハ犯罪病毒遺失物等ノ理由ヨリ帳簿ヲ検査シ時宜ニ依リ物品ノ差押ヲ爲スコトヲ得遺失物贓物ハ之ヲ徵收シテ被害者ニ還付シ被害者知レザレハ被徵收者ニ返還ス

買屋カ法令ニ反シタルトキ若クハ必要ト認ムルトキハ行政廳ハ營業ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得廢業後又ハ停止中ト雖モ以前ニ成立シタル買契約及ヒ

買物ニ關シテハ此法ヲ適用ス買屋カ禁止ノ處分ヲ受ケタル後他人ノ名義ヲ借リ又ハ他ノ買屋ノ代理ヲ爲スコト總テ古物商ノ場合ニ述ヘタル所ニ同シ

戊 遺失物ニ關スル警察 之ニ關シテハ明治三十二年三月法律第八十七號遺失物法ヲ述ヘナルヘカラス先ツ遺失物ノ拾得者ハ速ニ物件ヲ遺失者所有者若クハ回復ノ請求權アル者ニ返還スルカ又ハ警察署ニ之ヲ差出ササルヘカラス但シ法令ニ依リ所持スルコトヲ禁スル物ハ返還ノ限ニ在ラス

警察官署ハ差出ヲ受ケタルトキハ直チニ返付ヲ行フ若シ返付ヲ受ケタル者不明ナルトキハ公告ヲ爲ス保管物件ニシテ滅失毀損ノ虞アルカ又ハ不相當ノ勞費ヲ要スルトキハ賣却シテ金額ヲ保管ス此等ニ關スル費用ハ物件ヲ得ル者ノ負擔トス

物件ノ返還ヲ得ル者ハ一定ノ報勞金ヲ拾得者ニ給スヘシ但シ返還ヲ受ケタル者及ヒ拾得者ハ其權利ヲ拋棄シテ義務ヲ免ルルコトヲ得

公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ物ヲ拾得シタル者ハ管守者ニ交付スヘシ而

レテ法ハ構造物ノ占有者ヲ以テ拾得者トス此場合ニ於テハ占有者ト親ニ拾得
 セル者ト報勞金ヲ折半ス
 犯罪者ノ置去リタル物ノ拾得者ハ速ニ其物件ヲ警察署ニ差出スヘシ此場合ニ
 ハ没收スヘキ物ノ外一定ノ期間ニ還付スヘキ者ナキトキハ拾得者其所有權ヲ
 取得ス
 遺失物ニ關シテハ本法ノ外民法ノ規定モ適用セラレヘキヤ明カナリ又埋藏物
 誤リテ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件逃走ノ家畜ニ關シテハ特別ノ制限
 アリ遺失物法第一二條第一三條

第二款 行政警察

行政警察トハ學者カ保安警察ニ屬シテ稱スルモノニシテ助長事務ニ隨伴シテ
 起ル警察ナリ所謂保安警察ノ如ク獨立シテ起ルモノニ非ス故ニ次節ニ於テ助
 長事務ヲ説述スル場合ニ合セテ略述スルコトトスヘシ

第二節 助長事務

第一款 人事

第一項 國籍ニ關スル法規

之ニ關シテハ明治三十二年法律第六十六號國籍法ヲ述フヘシ國籍トハ人及ヒ
 物ヲ國家ニ屬スル根本的狀態ヲ謂フ人ニ付テハ臣民タル分限ヲ謂ヒ船舶等ニ
 付テハ其國家ニ從屬スル根本的關係ヲ示スモノトス我國籍法ハ臣民分限ニ關
 スル規定ナリ抑モ臣民トハ獨リ自然人ノミヲ稱スルカ法人モ亦包含セラレル
 ヤ若シ法人モ包含セラレルトモ我國籍法ハ不備タルヲ免レス何トナレハ法
 人ニ關スル規定ハ毫モ設ケラレナレハナリ
 臣民分限トハ何ソヤ換言セハ臣民タル資格其モノナリ或ハ曰ク臣民分限ハ臣
 民ノ權利ナリ即チ外國人ノ有スルヲ得ザル特權ナリト然レトモ外國人カ有セ
 ナルノ理由ヨリシテ直チニ權利ト爲ル能ハサルハ明カナリ既ニ述ヘタル如ク
 權利ニハ一定ノ要素ナカレハカラズ資格ヲ以テ直チニ權利ト混合スヘカラザ

ルナリ又或學者ハ曰ク臣民分限ハ一ノ事實ナリト此說必スレモ誤ラス然レトモ法カ事實ヲ認メテ資格ト爲スモフニシテ法學上ヨリスレハ臣民分限ハ臣民タル資格ナリト云フヲ以テ最モ適當ナリトス

臣民分限ノ效果ヲ論スレハ先ツ積極的ニハ其國ニ對シテ絕對無限ノ服從關係ニ立ツ能ハサルコト是ナリ蓋シ他國ニ對シテハ絕對的ノ服從ヲ爲ス能ハサルモ相對的ノ服從ハ臣民分限ト兩立セザルモノニ非ス相對的服從トハ何ソ例ヘハ他國ニ居住シ若クハ他國ノ領土内ニ或種ノ權利義務ヲ有スル場合ニ起リ此關係ニ因リ他國主權ノ支配ヲ受クルト雖モ一旦此關係止ムトキハ服從關係モ當然斷絕スルモノナリ要スルニ相對的服從ノ分量ハ絕對無限ニ非サルカ故ニ臣民ノ服從關係トハ全ク異ナルモノトス

以上ハ國籍ニ關スル說明ナリ國籍法ニ依リ行政上ノ歸化ヲ惹起ス場合ハ先ツ歸化ノ許可ナリ同法第七條ニ依レハ內務大臣ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ非サレハ其歸化ヲ許可スルコトヲ得ス一引續キ五年以上日本ニ住所ヲ有スルコト二滿

二十年以上ニシテ本國法ニ依リ能力ヲ有スルコト三品行端正ナルコト四獨立ノ生計ヲ營ムニ足ルヘキ資產又ハ技能アルコト五國籍ヲ有セス又ハ日本ノ國籍ヲ取得ニ因リテ其國籍ヲ失フヘキコト是ナリトス

歸化ノ許可ヲ與フルニハ通則トシテ以上ノ條件ヲ具フルヲ要ス但シ特定ノ場合ニ其一若クハ數條件ヲ省略シ得ルコトアリ而シテ我國ニ特別ノ功勞アル外國人ハ全ク此等ノ條件ニ拘ラス內務大臣勅裁ヲ經テ歸化ヲ許可ス又日本國籍ヲ取得シタル者ノ妻ノ歸化モ亦全ク以上ノ條件ニ依ラスシテ可ナリトス

次に內務大臣ハ歸化人及ヒ其子ニシテ日本人タリシ者及ヒ日本人ノ養子又ハ人夫ト爲リシ者カ一定ノ公職ニ就タラ得ザル制限ヲ一定ノ期日後勅裁ヲ經テ解除スルコトヲ得

尙ホ內務大臣ハ一旦日本國籍ヲ失ヒタル者ノ內特種ノ者カ日本ニ住所ヲ有シ日本國籍ヲ回復セントスル場合ニ之ヲ許可スルノ權アリ

明治三十一年七月法律第二十一號ニ依リ日本人カ外國人ヲ養子又ハ人夫ト爲スニハ內務大臣ノ許可ヲ要ス內務大臣ハ引續キ一年以上日本ニ住所又ハ居所

ヲ有シ品行端正ナル者ニ非テハ許可スルヲ得テ其規定ヲ其申請又ハ其親
以上ノ國籍法ニ關シ行政官廳ノ行動ノミヲ略述セラルモノナリ
日本國籍法ニ關シテハ其規定ニ於テハ日本ニ出生シタル者
日本國籍法ニ關シテハ其規定ニ於テハ日本ニ出生シタル者
日本國籍法ニ關シテハ其規定ニ於テハ日本ニ出生シタル者

第二項 戶籍ニ關スル法規

戶籍ニ關シテハ明治三十一年六月法律第十二號戶籍法ヲ說述セラルヘカラス
然ルニ同法ハ甚タ浩瀚ニシテ一舉ケ難シ故ニ唯大體ニ止メントス
戶籍法ノ規定スル所ハ人ノ身分族籍ニ關スル事務ナリ此事務ハ一方ニ於テ國
家行政ノ爲メニ戶口調査ノ目的ヲ達スルト同時ニ之ヲ基礎トシテ人ノ法律上
ノ關係ヲ設定スルコトヲ得ヘク一方ニ於テハ之ニ依リテ箇人ノ權利ヲ確實ナ
ラシムルヲ得ヘシ戶籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戶籍吏之ヲ管掌シ戶籍役
場ニ於テ之ヲ取扱フ戶籍吏ト稱スルハ市町村長及ヒ區長是ナリ此事務ニ對シ
テ監督ハ戶籍役場所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事はナ
リ其職務ハ之ニ依リテ行フ事也又ハ其職務ハ之ニ依リテ行フ事也

(甲) 身分ニ關スル登記書身分ノ登記ニ付テハ登記簿ヲ備フルヲ要ス登記簿ハ

分チテ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿トス身分登記簿ハ毎年之ヲ
編製シ何人ト雖モ手數料ヲ納付シテ其閱覽又ハ謄本抄本ノ交付ヲ請求スルコ
トヲ得ルコトニ依リテ行フ事也又ハ其職務ハ之ニ依リテ行フ事也
登記ノ手續ハ届出ニ依リテ行フ事也通則トス身分ニ關スル届出ノ事項ハ左ノ如
シ
第一出生第二嫡出子否認及ヒ私生子認知第三養子縁組及ヒ離縁第四婚姻及ヒ
離婚第五後見第六隱居第七失踪及ヒ死亡第八家督相続及ヒ相続人ノ指定及ヒ
廢除第九入籍離籍及ヒ復籍拒絕第十分家廢家絶家及ヒ廢絶家再興第十一國籍
ノ得喪第十二氏名及ヒ族稱ノ變更是才
(乙) 戶籍ノ記載 戶籍簿ハ戶籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ之ヲ
編製ス其内ニ於テ各戸毎ニ別ニ一本ヲ作リ戶主ノ直系尊屬戶主ノ配偶者
戶主ノ直系卑屬及ヒ其配偶者戶主ノ傍系親及ヒ其配偶者戶主ノ親族ニ非タル
者ト云フ順序ヲ以テ此等ニ關係スル必要事項ヲ記載ス二階イロイロイ
記載ノ手續ハ戶籍吏カ身分登記ヲ爲シ又ハ戶籍ニ關スル届出ヲ受理シタルト

キニ一定ノ手續ニ依リテ之ヲ爲スモノトス
以上戸籍法ノ規定ニ依ル行政行為ノ效力ハ之ヲ分テ二種ト爲スコトヲ得
第一ハ或事實ニ對シテ公證ノ效力ヲ有ス蓋シ此等ノ事實ハ登錄ニ依リテ始
メテ發生スルモノニ非ス然レトモ登錄ハ其關係者ニ利益ヲ與フルニミナラズ
國家及ヒ社會一般ノ者ト關係者トノ間ノ關係ヲ確實ナラシムルニ必要ナル公
ノ證明ナルヲ以テ之ヲ私人ノ自由ニ放任セス之ニ負ハシムルニ届出ノ義務ヲ
以テス例ヘキ出生死亡ノ如キ是ナリ
第二ハ登錄ハ單ニ公ノ證明ニ止マラス或行為ヲシテ法律上始メテ成立セシム
此種ノ行為ハ登錄ニ依リテ設定スルカ故ニ一私人ハ届出ヲ爲サザレハ其行為
ハ法律上發生セザルニ止マリ強テ届出ノ義務ヲ負ハシムル必要ナシ然ルニ既
ニ述ヘタル如ク第一ニ場合ニ登錄ノ有無ニ拘ラス事實ノ發生ハ法律上ノ效果
ヲ惹起スモノナルカ故ニ一定ノ期間ニ届出ノ義務ヲ負ハシメ以テ公益私益ヲ
保護スル所以ナリトス得
以上述ヘタル登錄事務カ私法上公法上種種ノ關係ヲ惹起スモノ一之ヲ述ス

第二款 衛生ニ關スル行政

衛生トハ各人ノ健康ヲ保全スルノ事務ナリ元來國家ハ一各人ノ健康ヲ護ル
コト能ハサルノミナラス一此ノ如キ干涉ヲ爲スヘキモノニ非ス然レトモ健
康保全ノ事務カ各人ノ力ニ及ハス之ヲ捨テテ顧ミサルトキハ社會ノ幸福ヲ傷
タルノ恐アル場合ニ至リテハ國家ハ之ヲ袖手傍觀スヘキニ非ス此目的ヨリシ
テ先テ諸種ノ設備ヲ爲シ各般ノ事業ヲ保護シ必要ノ場合ニハ各人ノ自由ヲ制
限スルコトヲ得
衛生事務ハ分テテ二ト爲ル第一ハ豫メ健康ヲ保護シ之ニ對スル危險ヲ未萌ニ
防止スルモノニシテ學者ハ之ヲ保健行政ト謂フ第二ハ健康ノ回復ヲ目的トス
ルモノニシテ學者ハ之ヲ醫藥行政ト稱ス

第一項 保健行政

(甲) 傳染病豫防 之ニ關シテハ明治三十年三月法律第三十六號傳染病豫防法ヲ說述スヘシ此法ニ於テ傳染病ト稱スルハ八種ナリ但シ此外ノ傳染病ニ對シテ此法ヲ適用スル必要アレハ主務大臣之ヲ指定スルコトトス

豫防ノ爲メニ先ツ戶主又ハ管理人等ニ傳染病又ハ其疑アル患者若クハ死者ヲ届出ツルノ義務ヲ負ハシム此届出ハ單ニ私人ノミニ任ズルトキハ脱漏隱蔽ノ恐アルカ故ニ患者若クハ死者ヲ診斷檢按シタル醫師ニモ届出ノ義務ヲ負ハシム

向キ行政官廳ハ傳染病患者ノ有無ヲ檢診セシムルコトヲ得患者アリタルトキハ清潔法及ヒ消毒法ヲ爲サシム患者ハ必要ノ場合ニハ傳染病院又ハ隔離病舎ニ入ラシム尙ホ必要ト認ムルトキハ交通ノ遮斷ヲ行フ其他當該官廳ハ豫防ノ目的ヨリシテ人民ノ群集ヲ制限シ病毒傳播ノ恐アル物件ニ對シ必要ナル處分ヲ行ヒ特ニ水ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

患者ノ死體ハ一定ノ手續ヲ經テ埋葬ス埋葬ニ關シテモ種種ノ制限アリ

總テ傳染病豫防ノ爲メ必要ナルトキハ當該吏員ハ其事由ヲ戶主管理人等ニ告知セテ家宅船舶其他ノ場所ニ立入ルコトヲ得而シテ行政執行法ニ依レハ單ニ

傳染病豫防ニ關シテ廣ク衛生ノ爲メ必要ナルトキモ土地物件ヲ使用處分シ又ハ其使用ヲ制限スルコトヲ得

市町村ハ傳染病流行ノ場合ニハ地方長官ノ指示ニ從ヒ豫防委員ヲ設ケ醫師其他必要ナル人員及ヒ物品ヲ備フルヲ要ス加之病院隔離所消毒所ヲ設置セサルヘカラス此等ニ關スル費用ハ總テ市町村ノ負擔トス但シ府縣稅又ハ地方稅ヨリ補助ヲ與フ

地方長官ハ傳染病流行ノ場合ニハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事務特ニ船舶消毒車ノ檢疫ヲ爲サシメ病毒感染ノ疑アルトキハ必要ノ日時間停留ヲ命ジ及ヒ醫師若クハ吏員ヲ其中ニ乘込マシムルコトヲ得此等ノ費用其他府縣ニ於テ施行スル豫防事務ノ諸費用ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス但シ國庫ヨリ補助ヲ與フ

豫防ニ關シ一箇人カ義務トシテ爲スルコトヲ施行セサルトキハ當該官吏之ヲ施行シ費用ハ市町村之ヲ支辨シ市町村ハ更ニ私人ヨリ徵收ス

地方長官ハ衛生組合ヲ設ケ清潔法消毒法其他傳染病豫防救治ニ關シ規

約ヲ定メシテ之ヲ履行セシムルヲ得其費用ハ市町村之ヲ補助スルニ關シテ
以上ハ豫防法ノ規定ナリ此等ニ違背シタルトキハ亦罰則ノ規定アレトモ其詳
細ハ之ヲ略ス此他傳染病豫防法施行細則、消毒車検査規則及ヒ船舶検査規則等ニ
關シテモ一之ヲ述フルノ暇ナシ

明治三十二年二月法律第十九號ヲ以テ新ニ海港検査法ヲ發布セラレタリ之ニ
依レハ海外諸港及ヒ臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シ傳染病豫防ノ爲メニ検査ヲ行フ
場合ノ規定ナリ検査ヲ行フ海港及ヒ傳染病人種類ハ内務大臣ノ指定ニ一任ス
船舶カ検査港ニ入り他船又ハ陸上ト交通ヲ爲スニハ検査官吏ノ許可ヲ要シ入
港後患者ヲ發生スルトキハ更ニ検査ヲ受ケ許可ヲ得ナレハ他ト交通シ又他港
ニ進航スルコトヲ得ス検査ヲ行ハサル港ニ於テモ傳染病ノ虞アル船舶ハ警察
官ニ届出ツルノ義務アリ
検査官吏ハ必要ノ場合ニハ停船ヲ命シ船客船員ヲ検査所ニ移轉セシメ其他必
要ナル處分ヲ行ヒ其費用ハ船長若クハ船客ヨリ徴收スルコトヲ得
弊ニ痘瘡モ亦傳染病ノ一種タリ之ニ對シテハ特ニ豫防ノ方法アリ即チ痘瘡是

ナリ明治十八年十一月種痘規則ニ依レハ小兒出生後一年以内ニ之ヲ行ヒ若
不善成ナレハ更ニ一週年内ニ再三之ヲ行フ善成後ト雖モ五年乃至七年ニ再種
ヲ行ヒ更ニ同期間ニ三種ヲ行フ但シ天然痘流行ノ兆アレハ以上ノ期限ニ拘ラ
ズ種痘ヲ行フ種痘済ノ場合ニハ醫師ヨリ證書ヲ受領シテ届出ヲ爲スヘキモノ
トス
種痘ハ其方法宜キヲ得サルトキハ無効ニ終ルノモノナラス却テ之カ爲メニ病毒
ヲ導クノ恐ナキニ非ス故ニ痘苗ノ製造ハ最モ注意ヲ加フヘキ所ニシテ明治二
十九年三月勅令第百五號ニ依リ痘苗製造所ヲ設定シ此事務ヲ行ハシム
(乙) 飲食物其他ノ有害物品ニ關スル規則 明治三十三年二月法律第十五號ニ
依レハ販賣ノ用ニ供スル飲食物又ハ販賣ノ用ニ供シ若クハ營業上ニ使用スル
飲食器、器具及ヒ其他ノ物品ニシテ衛生上危害ヲ生スル虞アルモノハ法令
依リ行政廳ニ於テ其製造、採取、販賣授與若クハ使用ヲ禁シ又ハ其營業ヲ禁止シ
若クハ停止スルコトヲ得而シテ必要ノ場合ニハ物品ノ所有者若クハ所持者ヲ
シテ之ヲ廢棄セシメ又自ら廢棄其他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

行政廳ハ有害物品ヲ検査シ試驗ニ要スル分量ハ之ヲ無償徵收スルコトヲ得此
 目的ノ爲メニ營業時間內ニ吏員ヲシテ物品所在ノ場所ニ立入ラシムルコトヲ
 得ルハ内務省令ヲ以テ此法ニ基キ飲食物用器具取締規則ヲ規定セリ
 飲食物ノ内特ニ牛乳營業獸肉販賣清涼飲料水營業氷雪營業ニ關シ各取締規則
 アリ
 有害性ノ著色料取締規則ニ依リハ一定ノ有害性著色料ハ飲食物ノ著色及
 ヒ飲食物ノ容器又ハ被包ニ使用スルコトヲ得ストスル事ヲ禁ズ
 次ニ有害物例ハ阿片烟草等ニ關シテハ特ニ禁止メ法ヲ設ク
 阿片ニ付テハ明治三十年三月法律第二十七號阿片法ニ依リハ先ツ阿片ノ製造
 ハ地方長官ノ許可ヲ受ケサルヘカラス而シテ製造シタル阿片ハ之ヲ政府ニ納
 付スヘキモノトス政府ハ之ニ就テ試驗ヲ施シタル後適當ナル價額ヲ付シテ
 不適品ハ無償ニテ燒棄ス此ノ如ク一旦政府ニ收納シタル阿片ハ醫藥用品ニ
 限リ封緘ヲ施シテ之ヲ賣下クルモノトス其手續ハ地方長官ヲ以テ管内藥劑師
 藥種商中相當ノ人員ヲ限リ卸賣人ヲ指定セテ醫師等ニ賣下クシタル事ナリ

烟草ニ關シテハ明治三十三年三月法律第三十三號ニ依リ未成年者ノ喫烟ヲ禁
 止ス若シ之ヲ犯シタルトキハ烟草及ヒ喫烟ノ爲メニナル器具ヲ沒收ス未成年
 者ノ監督者及ヒ烟草又ハ器具ヲ販賣シタル者ニ對シテモ取締ノ規定ヲ設ク
 (丙) 汚物ノ掃除 汚物掃除法ニ依リハ汚物掃除清潔保持ノ義務ハ市内ノ土地
 所有者使用者及ヒ占有者之ヲ負擔ス法令ニ依リ定マレル義務者ナキトキハ市
 カ此義務ヲ負擔スルコトナリ
 各義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ハ普通市ニ在リ而シテ之カ
 爲メニ生スル收入ハ市ノ所得ニ歸ス
 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視スル爲メ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコ
 トヲ得若シ私人カ義務ヲ履行セサル場合ニハ吏員カ代リテ執行シ其費用ヲ取
 立ツルコトヲ得ヘシ
 地方長官ハ以上ノ取締規定ヲ區町村等ニ準用スルコトヲ得
 (丁) 上水及ヒ下水ニ關スル規則 明治二十三年法律第九號水道條例ヲ略述ス

水道トハ市町村住民ノ需要ニ應ジ給水ノ目的ヲ以テ布設スルモノナリ之ヲ布設スルハ市町村ノ公費ヲ以テスヘク而シテ先テ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘキモノトス

水道用地水源地貯水池濾水場及ヒ水道線路ハ租稅ヲ免除シ必要ナル場合ニハ官有地ヲ拂下ケ又ハ貸下ケヘキモノトス

地方長官ハ水道工事及ヒ水質水量ヲ検査セシメ必要アレハ改良ヲ市町村ニ命スルコトヲ得總テ工事ノ落成改築修理ハ地方官廳ニ届出テ監査ヲ受クヘキモノトス

一家内ノ給水用具及ヒ水管ヨリ接続スル細管ヲ設置スル費用ハ家主ノ負擔トス市町村長ハ必要ノ場合ニハ其修繕ヲ命スルコトヲ得

一家専用ノ給水用具ヲ設ケル能ハサル者ノ爲メニ共用給水器ヲ設ケ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設ケルハ市町村ノ義務タリ

次ニ明治三十三年三月法律第三十二號下水道法ニ依レハ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲メ汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管排水線路

及ヒ附屬設置ヲ謂フ

市ニ於テ下水道ヲ新設セントスルトキハ先ツ内務大臣ノ認可ヲ受ケサルヘカラス又内務大臣ハ必要ノ場合ニ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得之ヲ設ケタル地ニ於テハ市又ハ土地ノ所有者使用者若クハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲メ必要ナル施設ヲ爲シ之ヲ管理スルノ義務アリ

右ノ場合ニ於テ必要アレハ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ其土地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ他人ノ之ヲ爲メニ設ケタル工作物ヲ使用スル權利アリ但シ土地使用ニ對シテハ損害アルトキハ之ヲ賠償スヘク其他ノ場合ニハ他人ニ損害ノ最モ少キ場所方法ヲ選ビテ行ハサルヘカラス而シテ工作物使用ニ對シテハ利益ノ割合ニ應ジ之ニ關スル費用ヲ負擔スヘシトス

下水道用地ニ必要ナル土地ニシテ若シ國有ナレハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償使用ヲ許スコトヲ得

當該吏員ハ實況監視ノ爲メ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得又私入カ其義務ヲ履行セサルトキハ吏員代ラテ之ヲ行ヒ其費用ヲ徴收ス

以上述へ來リシ所ハ區町村ニ之ヲ準用スルモノトス

(戊) 墓地及ヒ埋葬ニ關スル規則 之ニ關シテ墓地及ヒ埋葬取締規則行旅死亡人取扱規則等アリ此等ハ單ニ衛生行政ノ目的ノミニ非ス保安警察ノ目的ノ爲メニ亦之ヲ行フ先ツ墓地及ヒ火葬場ノ區域ニ關シテ制限ヲ設ケ次ニ埋葬及ヒ火葬ノ方法ニ付テ制限ヲ設ク此等ハ一方ニ於テ死屍ノ腐敗病毒ノ發生ヲ豫防スル衛生ノ目的ヨリ出ツルヤ明カナリ

次ニ行旅死亡人トハ行旅中死亡シ引取者ナキ者ヲ謂フ行旅死亡人ハ所在地市町村長假埋葬或場合ニハ火葬ヲ爲シ其住所居所若クハ氏名知レサレハ公告ヲ爲ス若シ知レタルトキハ速ニ相續人扶養義務者若クハ家族又ハ公共團體死亡人若クハ同伴者ノ住所道府縣但シ分明ナラサルトキハ其者ノ取扱ヲ爲シタル府縣ニ通知ス其費用終局ノ負擔ハ相續人次ニ扶養義務者次ニ前述公共團體ナトス

外國人タル行旅死亡人ニ關シテハ特別ノ取扱規則ヲ設ク

以上述へ來リシ所ハ保健行政ノ大體ナリ之ヲ行フカ爲メニハ內務大臣ノ監督

ノ下ニ種種ノ機關アリ例ヘハ中央衛生會衛生試驗所傳染病研究所血清藥院痘苗製造所海港檢疫所ベスト豫防事務局等ノ設備ハ皆如上ノ目的ニ出ツルモノトス

第二項 醫藥行政

醫藥行政ハ人ノ健康ヲ回復スルヲ目的トスルモノニシテ之ニ關シテハ第一ニ醫師產婆ニ關スル規則第二ニ藥品ニ關スル規定第三ニ病院ニ關スル規定ヲ必要トス

(甲) 醫師 醫術ハ一方ニ於テ甚タ危険ナルモノナルカ故ニ醫術ヲ開業セントスル者ハ免許ヲ要ス

第一 試驗及第證書ヲ有スル者ニ對シテ許可ヲ與フ

第二 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ外國醫學校ノ卒業證書外國ノ開業免狀ヲ有スル者ハ試驗ナクテ許可ヲ與フルコトアルヘシ

此等ノ資格ハ原則トシテ具ヘサルヘカラスト雖モ特ニ醫師ニ缺乏セル土地ニ

於テハ巴ムヲ得ス單ニ履歷ノミニテ假開業免狀ヲ與フルコトナキニ非ス
醫師其業ニ關シ犯罪者トハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ內
務大臣其業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但シ禁止ノ處分ハ同一ノ手續ニ依
リテ之ヲ解クコトアルヘシ

(乙) 產婆 產婆ノ業ハ一年以上學術修業ノ後試驗ニ及第シ名簿ニ登錄セラレ
タル二十歳以上ノ女子ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス但シ產婆缺乏ノ地ニ在
リテハ當分ノ内地域及ヒ期限ヲ定メテ許可スルコトヲ得
產婆ハ妊婦胎兒等ニ異常アリト認ムレハ應急ノ手當ノ外自ラ處置ヲ爲サス醫
師ノ診療ヲ請ハシムヘシ且ツ外科手術ヲ行ヒ器械藥品ヲ用フルコトハ普通ノ
場合ノ外之ヲ禁ス

地方長官ハ犯罪アリト認ムルトキハ產婆ノ業ヲ禁止若クハ停止スルコトヲ得
但シ其後本人ノ行狀ニ因リ之ヲ解除スルコトアリ又產婆ノ業ヲ營ムニ堪ヘス
ト認ムルトキハ名簿ノ登錄ヲ取消スコトヲ得
(丙) 藥品 藥品營業並ニ藥品取扱ニ關シテハ明治二十二年三月法律第十號ニ

規定ス先ツ藥品營業ニ付テハ藥劑師藥種商及ヒ製藥者ノ三種ニ區別ス藥劑師
トハ藥局ヲ開キ醫師ノ處方ニ依リ藥劑ヲ調合スル者ヲ謂フ藥劑師ハ學術試驗
ヲ受ケ免狀ヲ得タル二十歳以上ノ者タルヲ要ス但シ法定ノ卒業證書ヲ有シ又
ハ外國ノ開業證書ヲ有スル者ハ內務大臣ハ之ヲ審査シ試驗ナクシテ免狀ヲ授
與スルコトアリ藥劑師醫師ノ處方箋ヲ受ケタルトキハ正當ノ理由ナクシテ藥劑
ヲ拒ムコトヲ得ス但シ毒藥劇藥ノ處方箋ハ十年間之ヲ保存スヘキ義務アリ次
ニ藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ニシテ之ヲ爲スルハ地方廳ノ免許鑑札ヲ要
ス尙ホ次ニ製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ謂フ此業
ヲ營ムニモ免許鑑札ヲ要ス

藥品ノ取扱ニ關シテハ一定ノ藥局方ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授
與スルコトヲ得ス毒藥劇藥ニ付テハ藥劑師藥種商製藥間ニ於ケルノ外職業上
必要ト認ムル者ヨリ證書ヲ差出スニ非サレハ販賣授與スヘカラス但シ幼稚其
他不安心ノ者ニ對シテハ證書アルモ交付スヘカラス右證書ハ十年間之ヲ保存ス
ルモノトス

尙ホ内務大臣ハ監視吏員ヲシテ薬局及ヒ藥品製造販賣ノ場處ヲ巡視セシムル
 ことヲ得、
 (丁) 病院ニ關シテハ法ノ規定不備ナルカ故ニ茲ニ述ヘス、
 以上ハ醫藥ニ關スル行政ノ一斑ナリ之カ爲メニ内務大臣監督ノ下ニ數種ノ機
 關ヲ設ケ例ヘハ醫術試驗委員、藥劑師試驗委員、日本藥局方調查會ノ如シ、

第三款 救護行政

救護ノ行政ハ窮民病人及ヒ特種ノ者ヲ救恤保護スルヲ目的トスル行政ナリ、
 窮民ノ救護ニ關シテハ先ツ貧民ノ救恤ハ獨身老幼癡疾疾病等ニテ何等ノ業モ
 爲スコト能ハス事實亦貧ニシテ他ニ保育スル者ナキ場合ニ限ルコトトス若シ
 此以外ニ亙リ救恤ノ範圍ヲ廣クスルトキハ其事業ハ屢無益ニ歸スルノミナラ
 ス時ニ遊惰ノ風ヲ養成シ惡結果ヲ殘スノ恐アリ故ニ明治七年十二月恤救規則
 ハ窮民ノ救助ヲ已ムコトヲ得サル場合ニ限り原則トシテ人民相互ノ情誼ニ依
 リテ恤救ノ方法ヲ設ケヘントス但シ茲ニ注意スベキハ私人ノ救恤ハ聞、其方法

宜キヲ得サルカ爲メニ惡風ヲ獎勵スル恐アルノ點ニ在リトス

三子出産シ養育困難ノ場合ニハ一時金圓ヲ給與ス

次ニ病者ノ救護ニ關シテハ先ツ行旅病人ハ其取扱ニ關スル規定アリ行旅病人
 ト稱スルハ歩行ニ堪ヘタル行旅中ノ病人ニシテ療養ノ途ヲ有セス且ツ救護者
 ナキ者ヲ謂フ之ヲ救護スルハ所在地市町村長ノ職務ナリ此場合ニハ速ニ扶養
 義務者若クハ家族又ハ公共團體病人若クハ同伴者ノ住所地ノ府縣ニ通知シ之
 ヲ引取ラシム此等ノ費用ハ被救護者次ニ扶養義務者次ニ前掲ノ公共團體ヨリ
 辨償セシム

精神病者ニ就テハ精神病者監護法ニ依レハ監護ノ義務ハ病者ノ後見人配偶者
 四親等内ノ親族又ハ戶主ニ存ス義務ヲ履行スヘキ者ノ順位ハ同法第一條ニ定

監護義務者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ精神病者ヲ監置スルコトヲ得又監置ノ方法、場所ヲ變更シ若クハ監置ヲ廢止スル場合ハ届出ヲ要ス但シ特ニ許可ヲ必要トスル場合アリ

監護義務者ナク又ハ義務ヲ履行シ難キトキハ病者ノ住所又ハ所在地又ハ所在地市、町、村長ハ必要ノ場合ニ之ヲ監護スヘキモノトス行政廳モ亦必要ト認ムルトキハ監護義務者ニ監置ヲ命シ或ハ反對ニ其許可ヲ取消シ監置ノ廢止ヲ命シ又ハ其方法若クハ場所ノ變更ヲ命スルコトヲ得

行政廳ハ病者ノ檢診及ヒ家宅病院ノ臨檢ヲ爲スコトヲ得

私宅監置室精神病院及ヒ病院ノ精神病室ヲ設備管理ハ命令ノ規定ニ依ルヘク之ヲ使用スルニハ行政廳ノ許可ヲ要ス

終ニ監置ノ費用ハ被監置者次ニ扶養義務者ヲ負擔トス尙ホ行旅病人取扱法ノ規定ヲ準用ス

病者ノ監置ニ關シ醫師、官吏、公吏及ヒ關係者ニ於テ不正ヲ所爲アルトキハ病者ヲシテ一層憐ムヘキ境界ニ沈マシムル恐アルカ故ニ種種制則ノ規定ヲ設ク但

行政廳ノ處分ニ對シテ行政訴訟及ヒ訴訟ヲ起スコトヲ得ル場合ヲ規定セリ

以上ハ病者救護ノ規定ナリ

次ニ特種ノ者ニ對スル救護ニ關シテハ先ツ行政執行法ニ依レハ行政官廳ハ泥酔者、癲癩者、自殺シ企ツル者其他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ危險ナル物件ノ假價置ヲ爲スコトヲ得而シテ檢束ハ翌日ノ日没後假價置ハ三十日ヲ超ユヘカラスト

非常災害ニ罹リタル者ノ救助ハ明治三十二年三月法律第七十七號罹災救助基金法ニ規定ス同法ニ依レハ各府縣ハ救助基金貯蓄ノ義務アリ法ハ基金ノ最少額ヲ定メ其以上ヲ貯蓄セシム之カ爲メニ府縣ハ直接國稅ノ附加稅ヲ徵收スルコトヲ得而シテ法定ノ制限額ニ達スルマテ毎年國庫ヨリ之ヲ補助ス救助ノ爲メニ支出スル額カ一定ノ割合ヲ超過セシトキモ亦補助ヲ行フ

救助ノ爲メニスル支出ヲ區分スレハ第一、避難所費第二、食料費第三、被服費第四、治療費第五、小屋掛費第六、就業費トス即チ日常生活ニ缺クヘカラサル費用及ヒ勞動者ノ依頼スル價格僅少ニシテ必要缺クヘカラサル資料器具ノ費用並ニ疾病、

傷病ニ對スル療用費是ナリトス

基金ノ管理支出又ハ補充ノ方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ受クヘシトス而シテ法ニ定ムル運用方法ハ同法第十七條ニ規定ス概シテ言ヘ

ハ(一)國債、地方債、證券ノ買入(二)貸出及ヒ預入(三)給與品ノ買入是ナリトス

次ニ北海道舊土人ニ關スル保護モ法ノ規定スル所タリ先ツ舊土人ニシテ農業

ニ従事スル者ハ一戸ニ付キ一定ノ土地ノ所有權ヲ制限シ無償ニテ下付スルコ

トトス尙ホ窮困ナル者ニハ農具種子ヲ給シ疾病老幼不具者等ハ各之ニ應スル

救助ヲ爲シ貧困者ノ勞務ハ授業料ヲ給シテ就學セシム此等ノ費用ハ巴ムコト

ヲ得ナレハ國庫ヨリ之ヲ支出ス終ニ舊土人共有財産ニ對シテハ地方長官ハ内

務大臣ノ認可ヲ經テ適當ナル處分ヲ爲スコトヲ得

次ニ移民ノ保護ニ關シテ移民保護法ノ規定アリ同法ニ依レハ移民トハ勞動ニ

従事スルノ目的ヲ以テ外國ニ渡航スル者ヲ謂フ

移民ハ行政廳ノ許可ナケレハ渡航スルコト能ハス行政廳ハ移民取扱人ニ依ラ

サル者ニハ二人以上ノ保證人ヲ定メシメ之ヲシテ移民ノ救助ヲ行ハシメ又ハ

救助ノ費用ヲ負擔セシム

行政廳ハ必要ノ場合ニハ渡航ヲ差止メ許可ヲ取消スコトヲ得許可ノ日ヨリ六

箇月内ニ出發セサレハ許可ハ效力ヲ失ス

移民取扱人トハ移民ヲ募集シ又ハ其渡航ヲ周旋スルヲ營業ト爲ス者ヲ謂フ移

民保護ノ目的ノ爲メニハ取扱人ノ取締ヲ要ス取扱人ハ屬不正ノ所爲ヲ以テ不

當ノ利益ヲ得移民ヲシテ流離困厄ノ地ニ陥ラシムルコトアルカ故ニ法ハ先ツ

此業ヲ爲サント欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受ケシメ次ニ保證金ヲ納付セザル

ヘカラス保證金ハ主トシテ取扱人カ移民ニ對スル契約不履行ノ場合ニ之ヲ支

出シテ移民ノ救助ヲ行フモノトス

取扱人タルコトヲ得ル資格ハ先ツ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミニテ組織スル商

事會社ニシテ帝國ニ主タル營業所ヲ有スル者ナラサルヘカラス尙ホ施行細則

第八條ニ此業ヲ營ム能ハサル者ヲ列舉ス

取扱人ハ社員又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡航セシムルコト能ハ

ス又周旋募集ヲ爲ストキハ移民ト契約シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ而シテ契約

ニ定ムル手数料ノ外金錢物品ヲ受クルコトヲ得ス
 行政廳ハ取扱人ノ行為ヲ法令ニ違ヒ公安ヲ害スト認ムルキ又ハ保證金滯納
 ノ場合ニハ營業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得又許可ノ日ヨリ六箇月間
 ニ開業セザレハ許可ハ其效力ヲ失フ
 尙ホ移民及ヒ取扱人ニ對スル罰則ノ規定アレトモ今之ヲ述ヘス北海道ノ移住
 民ニ關シテハ特ニ汽車渡船ノ無賃又ハ割引ノ法ヲ設ケ其渡航ノ船舶ニ對シテ
 ハ取締規則アリ婦女ノ海外渡航ニ付テハ外務省訓令ヲ以テ特ニ婦女ヲ保
 護シ不長ノ徒ノ誘惑ヲ杜絶スルコトヲ期ス
 以上移民ノ救護ナリ次ニ船舶遭難ノ場合ニ乗船者ノ救護ニ關シテハ水難救護
 法ノ規定アリ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スノ義務ハ市町村長ニ存ス警察官吏モ
 市町村長ヲ助ケ又ハ之ニ代リテ職務ヲ行フヘシトス

第四款 風教ニ關スル行政

第一項 教育

教育ハ文化ノ淵源ナリ故ニ一國ノ文化ヲ進メント欲セハ國家ハ教育事業ノ完
 備ヲ計ラサルヘカラス之カ爲メニハ種種ノ設備ヲ爲シ必要アラハ命令強制ヲ
 行ヒテ其目的ヲ達セサルヘカラス然レトモ國家ノ事業ニモ自ラ之ニ伴フ弊害
 ノアルアリ殊ニ教育ノ如キ精神の發育ニ關スル事業ハ之ヲ國家ノ獨占ニ歸セ
 シムルトキハ却テ沮喪ニ陥ラシムルノ恐ナキニ非ス故ニ今日一般ノ趨勢ハ自
 由主義ト國家獨占主義トヲ折衷シテ適宜法制ヲ設クルコトトス
 甲 小學校 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シ道德教育及ヒ國民教育ノ基礎
 並ニ其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス
 小學校ハ分レテ尋常及ヒ高等ノ二種トス但シ二教科ヲ一校ニ併置スルコトヲ
 得ヘシ
 尋常小學校設置ノ義務ハ市町村及ヒ町村學校組合ニ存ス町村學校組合トハ一
 町村ノ實力缺乏及ヒ兒童數不足等ノ理由ヨリ他町村ト組合ヲ爲ス場合ヲ謂フ
 府縣知事ハ特別ノ事情ニ因リ市立尋常小學校ノ設置又ハ其一部ノ設備ヲ擔當
 シ市内ノ私立小學校ヲ以テ代用セシムルヲ得郡長モ亦町村立尋常小學校ニ關

シ同一ノ方法ニ依ラシムルコトヲ得但シ私立小學校ノ設置ハ知事ノ認可ヲ受ケ其廢止ハ知事ニ届出ツヘキモノトス
 學齡兒童保護者ハ尋常小學ノ教科修了マテ學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ有ス學齡ト稱スルハ滿六歳ニ達シタル翌月ヨリ滿十四歳ニ至ルマテヲ稱ス保護者ト稱スルハ兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ之ナキトキハ其後見人ヲ謂フ就學義務ヲ有スル者ハ兒童ヲ官立又ハ公立尋常小學校又ハ代用小學ニ入學セシムベシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其他ニ於テ同一教科ヲ修メシムルコトヲ得
 兒童精神若クハ身體ノ故障又ハ保護者貧困ノ理由ヨリシテ市町村長ハ監督官應ノ認可ヲ受ケテ就學義務ヲ免除又ハ猶豫スルコトヲ得
 以上ハ尋常小學校ニ關スル説明ナリ
 高等小學校ノ設置ハ市町村ノ義務ニ非ス但シ知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ設置スルコトヲ得ルハ勿論ナリ又町村ハ其協議ニ因リ郡長ノ認可ヲ受ケテ學校組合ヲ設ケルコトヲ得ヘシ

特別ニ設立スル幼稚園官立學校其他小學校ニ類スル各種學校ハ前述セル公立高等小學校及ヒ私立小學校ノ規定ヲ準用スヘシトス
 尋常及ヒ高等小學校ノ教科ニ關シテハ先ツ其性質上尋常小學ハ智育體育ニ於テ尤モ簡易普通ニシテ須要ナル科目ヲ教ヘ高等小學ニ至リテハ多少複雑セル科目ヲ加フ尙ホ其土地ノ情況又ハ兒童身體ノ情況男女ノ差別ニ依リ二三ノ科目ヲ増減スルコトヲ得但シ科目ノ増減等ハ知事ノ認可ヲ要ス
 教科用圖書ハ文部省ノ編纂及ヒ文部大臣ノ檢定ニ由ルモノニ就キ審査委員會ノ審査ヲ經テ知事之ヲ探定ス
 教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ必要トス但シ特別ノ事情アルトキハ免許狀ナキ者ヲ以テ代用スルコトヲ得其監督ハ文部大臣及ヒ府縣知事之ニ當ル
 校長及ヒ教員ハ必要ノ場合ニハ體罰ヲ除ク外兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得此等ノ者ハ一校ノ風紀ヲ擔ヒ兒童ノ瞻仰スル所ナルカ故ニ不法ノ所爲アレハ其免許狀ハ效力ヲ失ヒ尙ホ不正不當ノ所爲アレハ懲戒ノ處分ヲ受クヘキモノト

小學校ニ關スル費用ハ市町村町村學校組合又ハ其區ノ負擔トス但シ巴ムコトヲ得タル場合ニ町村又ハ町村組合ニ對シテハ郡之ヲ補助シ郡又ハ市ニ對シテハ府縣之ヲ補助ス但シ上級監督官廳ノ指揮ヲ受ケテ之ヲ行フヘキモノトス其教員檢定及ヒ免許狀發ニ教科書審査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス其授業料ハ市町村町村組合又ハ其區ノ收入タリト雖モ特別ノ事情アルニ非ナレバ市町村立尋常小學校ニ於テハ之ヲ徵收スルコト能ハス

終ニ市町村ニ於ケル教育事務大體ノ管理及ヒ監督ニ付テハ市町村長又ハ町村學校組合長ハ市町村又ハ組合ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ市町村立小學校ヲ管理ス次ニ市立及ヒ町村立小學校長及ヒ教員ノ執行スル事務ハ府縣知事及ヒ郡長之ヲ監督ス而シテ私立小學校ハ市ニ在リテハ知事町村ニ在リテハ郡長之ヲ監督ス

乙 中學校 中學校ハ高等ナル普通教育ヲ爲スヲ以テ其目的トス

一節以上ノ中學校ヲ設置スルハ北海道廳及ヒ府縣ノ義務タリ但シ其經費ハ北海道廳沖繩縣以外ニ於テハ府縣ノ負擔トス郡市町村區及ヒ町村組合ニ須要ニシ

ヲ且ツ小學教育ニ妨ナキ場合ニ限り中學校ヲ設クルヲ得私人モ亦中學校令ノ規定ニ依リ之ヲ設置スルコトヲ得

凡テ中學校ノ設置及ヒ廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケヘキモノトス其編制等ニ關シテハ文部大臣總テ之ヲ定メ教科書モ原則トシテ同大臣ノ檢定ヲ得タルモノヨリ之ヲ定ム

教員ハ原則トシテ文部大臣ノ付與セル免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ例外ニ同大臣之ヲ定ム

中學ニ入學スル者ハ年齢十二年以上ニシテ高等小學校第二學年ノ課程ヲ卒業シタル者及ヒ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

授業料ハ公立學校ニ在リテハ之ヲ徵收スヘキモノトス但シ特別ノ場合ニ減免スルコトナキニ非ス

以上中學教育ヲ以テ之ヲ小學教育ニ比スレハ自ラ寬嚴ノ程度ヲ異ニスルヲ見ルヘシ小學教育ハ殊ニ其普及ヲ計リ國家ハ十分ニ干渉シテ其設備ヲ爲シ一方ニ於テハ國民ニ負ハシムルニ就學ノ義務ヲ以テテ其致政トシテ其至ラズルヲ最

レ恐ル故ニ私立ノ小學ノ如キハ專ラ一時代用ノモノニ屬シ原則トシテハ國家
 ノ設備管理ニ由ルコトトス然ルニ中學教育ニ至リテハ國家ノ施設モ勿論必要ナリト雖モ私人モ亦中學校
 令ニ依リ同シク學校ヲ設備シ教育事務ヲ行フコトヲ得此點ヨリ觀察スルトキ
 ハ中學教育ハ公私並行ノ主義ニ近シト謂フヘキナリ
 中學以上ノ教育ハ尙ホ一層之ヲ自由ニスルノ必要アリ其理由ハ茲ニ之ヲ略ス
 丙 高等女學校 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スラ目的
 ス其設置廢止編制及ヒ教員教科用書並ニ入學者ノ資格等ニ關シテハ前ニ中學
 校ノ場合ニ說明セル所ト大體異ナラス唯便宜上郡市町村立ノ高等女學校ヲ府
 縣ニ於テ代用スルヲ得ル場合ノ規定及ヒ女子教育ノ必要上技藝專修科ヲ置ク
 ノ規定及ヒ女子修學ノ速成ヲ要スル事情アレハ修業年限ヲ短縮スルノ規定並
 ニ女學校ノ女子ニ於ケルハ中學校ノ男子ニ於ケルヨリモ高等ナル階級ニ位ス
 ルヲ以テ學術攻究ノ必要上補習科ノ年限ヲ延長シ及ヒ專攻科ヲ置クノ規定カ
 特ニ設ケラレタリ

丁 師範學校 明治三十年十月勅令師範教育令ニ依レハ高等師範學校ハ師範
 學校尋常中學校及ヒ高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス女子高等
 師範學校ハ師範學校女子部及ヒ高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所ト
 ス而シテ師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
 高等師範學校及ヒ女子高等師範學校ハ東京ニ各一校普通師範學校ハ北海道及
 ヒ各府縣ニ各一校以上ヲ設置ス前二者ハ文部大臣之ヲ管理シ後者ハ地方長官
 之ヲ管理ス後者ノ經費ハ北海道及ヒ沖繩縣ヲ除キ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔ト
 ス此等ノ學校生徒ノ募集學費及ヒ卒業後ノ服務ニ關シテハ文部大臣之ヲ定ム
 ルコトヲ得學生ノ學費ハ原則トシテ官ヨリ支給スト雖モ私費生モ亦之ヲ設ク
 ルコトヲ得
 以上ハ師範教育令ニ依リ概括シテ說明ヲ爲セルモノニシテ以下各別ニ略述ス
 レハ先ツ
 尋常師範學校ノ設備ニ關シテハ文部大臣之ヲ定ム師範學校ニハ普通學科ノ外
 ニ尋常小學教員ノ急需ニ應ズル爲メニ簡易科ヲ設ケ男生ヲ養フコトヲ得又豫

備科小學校教員講習科及幼稚園保母講習科ヲ設ケルコトヲ得
 生徒タラントスル者ハ身體品行學力ニ付テ一定ノ資格ヲ具ヘタルヘカラス而
 シテ毎年募集ノ員數ハ管内學齡兒童ノ數ニ對シ一定ノ割合ヲ有スル卒業生ヲ
 出スヘキ丈ヲ募集スルコトヲ得
 若シ私費生ヲ置カントスルトキハ地方長官員數ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受ケ
 ヘントス
 學生ニシテ不都合ノ行爲アリ退學ヲ命セラレタルキハ學資償還ノ義務ヲ生ス
 卒業生ハ其道府縣内ニ於テ一定ノ期限内小學校教員ノ職ニ従事スルノ義務アリ
 但シ其期間ノ一部ヲ過クルトキハ其殘部ハ學務ニ關スル他ノ職ヲ以テ代フル
 コトヲ得此等ノ義務ヲ盡ス能ハサル者ハ在學中給與セル學資ヲ償還セシムル
 ヲ得向ホ此義務ヲ盡ササル者及ヒ免許狀ヲ視察サレタル者ハ學資償還ヲ命スル
 高等師範學校ハ尋常師範學校ノ課程ニ照シ更ニ精深ナル程度ニ於テ教授スル
 モノトス入學ヲ許サル者ハ試験及第ノ後更ニ資性品行才能ヲ察シ適當ト認
 ムル者ニ限ル

學生ニシテ疾病ノ外自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者及ヒ卒業後正常ノ事由ナ
 タシテ服務ノ義務ヲ盡ササル者及ヒ卒業後免職又ハ免許狀視察ノ處分ヲ受ケ
 タル者ハ學費償還ノ義務ヲ生ス
 卒業生ニシテ向ホ特種ノ研究ヲ爲サントスル者ノ爲メニ研究科ヲ置ク向ホ教
 員缺乏ヲ充ス爲メ特別ノ必要アレハ専修科ヲ設クルコトヲ得又科目ヲ選ビテ
 學修セントスル者ノ爲メニ撰科ヲ置クコトヲ得
 卒業生ハ一定ノ年限間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ負フ但シ特別ノ事
 故アル者ハ其理由ヲ具シテ義務免除ヲ文部大臣ニ請願スルコトヲ得
 女子商業師範學校ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ一層精深ナル程度ニ於テ教
 授ス生徒募集ニ關シテハ本科生専修生ハ師範學校女子部及ヒ高等女學校卒業
 生及ヒ之ト同時ノ學力ヲ有シ身體健全品行方正ナル者ニ就キ試験ノ上選拔ス
 此等ハ更ニ假ニ入學セシメ資性品行等ヲ審察シテ後入學ヲ許可スルモノトス
 自己ノ便宜ニ因リ退學シ又ハ品行修マラスシテ退學ヲ命セラレシ者及ヒ正當ノ
 理由ナクシテ卒業後服務ノ義務ヲ盡ササル者並ニ免職免許狀視察ノ處分ヲ受

ケタル者ハ學實價還ノ義務アリ、
 卒業生ノ爲メニ設クル研究科及ヒ専修科並ニ撰科ニ關シテハ別ニ述ヘス當
 卒業後ノ服務ニ付テモ前高等師範學校ノ場合ニ述ヘタル所ト同一ナリ、
 成 實業學校 實業學校トハ工業農業商業ノ實業ニ従事スル者ニ須要ナル教
 育ヲ爲スヲ以テ目的トス其種類ハ工業學校、農學校、商業學校、商船學校及ヒ實
 業補習學校トス蓋山山林獸醫及ヒ水産ノ學校ハ農業學校ト看做シ徒弟學校ハ
 工業學校ノ種類トス
 北海道及ヒ府縣ニ於テハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得又土地ノ情況ニ依リ必
 要アレハ文部大臣ハ其設置ヲ命スルコトヲ得
 郡市町村ニ於テモ須要ニシテ且ツ小學校教育ニ妨ナキ限り實業學校ヲ設置ス
 ルコトヲ得私人モ亦之ヲ設置スルコトヲ得
 實業學校ノ設備及ヒ廢止其編制及ヒ教員ノ資格ニ關シテハ文部大臣ノ定ムル
 所ニ依ル但シ補習學校ノ設立及ヒ廢止ハ地方長官之ヲ認可ス
 實業學校ノ經費ハ北海道及ヒ沖繩縣ヲ除キ各府縣ノ負擔トス國庫ハ實業教育

ヲ獎勵スルカ爲メ毎年二十五萬圓ヲ支出シテ補助ヲ行フ此補助ヲ受クヘキ學
 校ハ文部大臣ノ認可セル學則ニ依リ及ヒ一定ノ條件ヲ充ス者ニ限ル補助額ハ
 其設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限リ普通五箇年ヲ一期トシテ之ヲ與フ
 己 醫學校及ヒ藥學校 醫學校ハ尋常及ヒ簡易ノ二科ニ分テ醫師ノ養成ヲ圖
 ルモノトス醫學校ニ於テハ臨床實驗ノ用ニ供スル爲メニ病院ノ準備ヲ必要ト
 ス藥學校ハ藥學ヲ教授スル處ニシテ同シク尋常及ヒ簡易ノ二科ヲ置キ藥劑師
 ノ養成ヲ圖ルモノトス
 高等學校 高等學校ハ專門科ヲ教授スル處トス但シ帝國大學ニ入學スル
 爲メ豫科ヲ設クルコトヲ得又其附屬トシテ低度ナル特別學科ヲ設クルコトヲ得
 辛 帝國大學 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應ズル學術技藝ヲ教授シ及ヒ其蘊奧
 ノ研究スルヲ以テ目的トス
 大學ハ大學院及ヒ分科大學ヲ以テ構成ス分科大學ハ學術技藝ノ理論及ヒ應用
 ノ教授シ大學院ハ更ニ進ミテ其蘊奧ヲ研究スル處ナリ大學院ニ入ラントスル
 モノハ分科大學卒業生ハ許可ヲ要シ分科大學卒業生ニ非サル者ハ試驗委員ノ

檢定ヲ要ス大學生會主ニ其ノ職責ニ依テ大學卒業生ニ對シテ其ノ修業成績ヲ檢査スルハ其ノ職責ニ屬ス
 大學ニ總長ヲ置キ其下ニ評議會ヲ設ク各科ニ分科大學長ヲ置キ其下ニ教授會ヲ置ク教官ハ教授及ヒ助教トシ必要ノ場合ニハ囑託講師ヲ置ク尙ホ大學ニ功勞アリ又ハ學術上效績アル者ハ名譽教授ノ名稱ヲ與ヘラルルコトアリ
 壬 私立學校 私立學校ハ特別ノ規定アル場合ノ外地方長官ノ監督ニ屬シ其設立及ヒ校長若クハ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ定ムルニハ認可ヲ要ス
 校長及ヒ教員ハ不正不良ノ者ナルヘカラス其制限ハ私立學校令第四條ニ規定ス教員ハ免狀ヲ有スル者ノ外其學力ニ關シ認可ヲ受ケタルヘカラス一旦認可スルモ不適當ナリト認ムレバ之ヲ取消スコトヲ得
 私立學校ハ公立ニ代用スルモノノ外ハ就學義務ヲ了ラサル者ヲ入學セシムルコトヲ得ス但シ公立及ヒ代用私立學校ニ入ラサルコトヲ許サレシ者ハ此限ニ在ラス
 監督官廳ハ私立學校ノ設備授業等ニ於テ有害ナリト認ムルトキハ其變更ヲ命ズ

若シ此命令及ヒ一般法令ニ違反シ又ハ秩序風俗ヲ亂シ若クハ六箇月以上授業ヲ爲ササル場合ニハ閉鎖ヲ命ズ但シ閉鎖ノ處分ニ關シテハ訴訟ヲ爲スコトヲ得

以上公私立學校種類ノ大略ヲ叙述セリ
 癸 外國留學生ニ關シテハ文部省外務省通信省留學生ノ規定アリ文部省留學生ハ特ニ須要ノ學術技藝ヲ研究セシムルカ爲メニ文部省直轄學校卒業者又ハ教官ヨリ選拔差遣スルモノトス外務省留學生ハ語學研究ノ爲メニ通信省留學生ハ海事ニ關シ須要ノ學術技藝ヲ研究スル爲メニ差遣スルモノトス
 最後ニ學位令ニ關シ一言スヘシ學位令ハ最高ノ學位ヲ授與スルノ規定ナリ即チ九種ノ博士是ナリ第一大學院ニ入り試験ヲ經タル者及ヒ論文ヲ提出シテ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者第二博士會ニ於テ相當ノ學力アリト認メタル者第三大學總長ノ推薦ニ由ル者ニ就テ文部大臣學位ヲ授與ス

第二項 著作權保護

前ニ保安警察ヲ説明スル場合ニ出版ニ關スル警察ヲ述ヘタリ茲ニ述ヘントスル所ハ著作ノ權利保護ニ關スルモノニシテ助長ノ行政ニ屬ス而シテ本款ニ於テ之ヲ説明スルハ著作ハ主トシテ風教ニ關スルモノナレバナリ

著作權ハ私權ナリ之ヲ登錄スルトキハ一方ニ於テハ文書圖書等ヲ發行シテ其利益ヲ受タルコトヲ得ルト共ニ一方ニ於テハ他人カ之ヲ發行スルヲ妨止スルコトヲ得ヘシ此權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

著作權法ニ依レハ文書、演義、圖書、彫刻、模型、寫真、其他、文藝、學術、若クハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ之ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

文藝、學術ノ著作物ハ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ脚本及ヒ樂譜ノ著作權ハ興行權ヲ包含ス

發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ著作者生存間及ヒ死後三十年間繼續ス但シ合著ニ係ルモノハ最終ノ死亡者ノ死後三十年間トス

著作者死後ノ發行、興行及ヒ無名又ハ變名ノ著作物並ニ官公衙學校、社、協會其他ノ團體ニ於ケル著作物ハ發行又ハ興行ノ時ヨリ三十年間著作權ヲ有ス

翻譯權ニ關シテハ原著物發行ヨリ十年内ニ翻譯物ヲ發行セザレハ翻譯權喪

消滅シ他人カ原著物ヲ翻譯スルヲ妨ケルコトヲ得ス

著作權期間ノ計算ハ發行後興行シタル年又ハ著作者死亡ノ年ノ翌年ヨリ起算ス

寫真ニ關シテハ特別ノ規定アリ即チ其著作權ハ十年間繼續ス期間ノ計算ハ發行ノ年ノ翌年ヨリ又發行セザルトキハ木板製作ノ年ノ翌年ヨリ起算ス

著作權ノ目的物ト爲ルヲ得サルハ第一、法令及ヒ官公文書第二、定期刊行物ニ記載シタル雜報及ヒ政事上ノ論說若クハ時事ノ記事第三、公開ノ裁判所議會並ニ政談集會ニ於テ爲シタル演述是ナリ

純粹ノ著作ニ非シテ著作者又ハ著作物ト看做サル者ハ第一、數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ其全部ニ付テ著作權ヲ有ス

第二、原著ニ批評、註解等ヲ加ヘ又ハ増減、翻案シ新著作物ト看做ナルヘキモノ

第三、適法ニ翻譯ヲ爲シタル者

第四、原著物ト異ナリタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者

第五、寫真、肖像ノ著作ヲ囑託シタル者及ヒ之ヲ自己ノ著作ニ挿入シタル者はナラ向キ無名又ハ變名ノ著作物ノ發行者又ハ興行者ハ著作者カ實名ノ登錄ヲ受

ケナレハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得
 著作權者ハ著作權ノ登錄ヲ受クルコトヲ得發行又ハ興行シタル著作ハ登錄ヲ受クルニ非ナレハ民事ノ訴訟ヲ起スコトヲ得ス著作權ノ讓渡質入ニ關シテモ登錄ヲ受ケナレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 未タ發行又ハ興行セタル著作及ヒ著作權ハ他人カ之ヲ妨クルコトヲ許サズ隨テ債權者ト雖モ之ヲ差押フルコト能ハサルヲ原則トス
 著作權承継者ハ著作權ノ同意ナクシテ其著作者ノ氏名若クハ其題號ヲ改メ又ハ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス
 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アル外本法ノ規定ヲ適用ス
 終ニ僞作者ハ著作權法ニ規定スル罰則ノ外民法上損害賠償ノ責ニ任ヌ著作權法第三十條ハ發行セル著作物ノ複製ニシテ僞作ト爲ラナルモノヲ規定ス例ヘハ正當ノ範圍ニ於テ節録引用挿入スル如キ場合ナリ今一一之ヲ述ヘス
 次ニ純粹ノ僞作者ニ非スシテ僞作者ト看做スヘキ者ハ第一僞作物ノ輸入者第二練習ノ爲メニ著作セル問題ノ解答書發行者はナリ

善意且ツ過失ナクシテ僞作ヲ爲シ之カ爲メニ利益ヲ受ケ他人ニ損害ヲ及ホシタル者ハ利益ノ存スル限度ニ於テ返還ノ義務アリ
 其他訴訟ノ手續及ヒ種類ノ罰則ノ規定ニ關スル說明ハ之ヲ略ス

第三項 宗 教

憲法第二十八條ニ曰ク日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タル義務ニ背カサル限ニ於テ信仰ノ自由ヲ有ス下之ニ依レハ信教ハ原則トシテ自由ナリ信教トハ心理ノ信仰ヲ謂フニ非ス外部ニ發表スル行爲不行爲ヲ指スコト明カナリ古ニ在リテハ時ニ國權ヲ以テ心理ノ信仰ヲ束縛セント試ミタルコトアレトモ此ノ如キハ屢一國ノ動亂ヲ導クノミナラス素ト心理ノ作用ハ國權ト雖モ難ク及ヒ難キモノナリ故ニ今日ノ法治國ニ於テハ法ハ外部ニ發表スル人ノ行爲ニ關係スルモノニシテ其心意ニ立入ラストスルカ原則ナリトス尙ホ信教ノ自由ハ安寧秩序ヲ妨ケス一般臣民タル義務ニ背カサル限ニ於テ之ヲ有ス或ハ曰ク國家ノ法令ヲ遵奉スルハ臣民ノ義務ナリ隨テ法令ヲ以テ信教ヲ制限スル場合モ臣

民ハ之ニ服従スヘキ義務アリ左レハ結局信教ノ自由ハ有名無實ニ終ラント然
 レトモ此論ハ曲解タルヲ免レヌ憲法カ自由權ヲ與ヘタル以上ハ其實ナカラシ
 ムルコトヲ許サヌ條文ニ臣民ノ義務ト謂フハ唯宗教ノ關係外ニ於テ一般公益
 ノ爲メニ負ハシメタル義務ヲ稱シ此等ニ反セサル限ハ信教ノ自由ヲ有スルノ
 主意タルヤ明カナリ

國家ト宗教トノ關係ニ付テハ學者ハ三種ノ主義ヲ區別ス第一政教一致ノ主義
 第二政教分離ノ主義第三教會公認ノ主義是ナリ第一ハ政治ト宗教ト一致シテ
 分ツヘカラサル制度是ナリ第二ハ國ノ政務ハ全ク宗教ニ關係セサル制度是ナ
 リ第三ハ全ク政務ヲ分離セシメス二三ノ教會ヲ公認シテ多少ノ特權ヲ與フル
 モノ是ナリ我國ニ於テモ神佛二教ニ關シテハ特ニ種種ノ規定ヲ設ク此點ヨリ
 スレハ第三主義ニ傾ケルニ似タリ神佛教ニ對シテ特別ノ取扱ヲ爲スハ信教自由
 ノ精神ニ反セシヤノ疑ナキニ非ス然レトモ教規宗制等ニ關シ内務大臣ノ監督
 權ヲ認ムル如キ二三ノ規定アルモ信仰ノ自由ヲ制限スルニ非サル以上ハ必ス
 シモ憲法ニ牴觸スト論スヘカラス

宗教ニ關シテハ現行法規極メテ不備ニシテ零細ナル布達類ヨリ成リ茲ニ概括
 シテ述フルコト能ハス唯一ニテ舉ゲントス

明治元年三月達神佛混淆廢止ニ關スル件ト稱スル規定ハ從來神佛ヲ混淆シ來
 リシ因習ヲ改ムルノ主意ナリシナリ次ニ明治十七年太政官布達第十九號ニ依
 レハ各宗派ハ妄ニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派間ニ爭論ヲ爲スヘカラス但シ宗派カ内
 務大臣ノ認許ヲ得テ離合スルハ實例ノ示ス所タリ佛道各宗神道各派ニ管長ヲ
 置キ事務ヲ掌理セシム管長ハ其立教開宗ノ主義ニ基キ左ノ規定ヲ爲シ内務大
 臣ノ認可ヲ得ヘシトス第一教規及ヒ宗制寺法第二教師ノ分限等級進退任職ノ
 任免僧侶ノ分限第三寺院古文書寶物什器ノ保存是ナリ

明治三十三年八月内務省令第三十九號ニ依レハ宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式
 執行ヲ目的トスル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サントスルトキハ設立者ハ定款又
 ハ寄附行爲ノ外一定ノ事項ヲ記シタル書面ヲ差出スヘシトス

次ニ宗教宣布ニ從事スル各人ハ宗教ノ名稱布教ノ方法等ヲ住居地地方長官ニ
 届出ツヘシトス又堂宇說教所ヲ設立セントスルトキハ亦一定ノ事項ヲ具シ其

許可ヲ受クヘシトス

第四項 祭祀

信教ト祭祀其他ノ儀式トハ必スシモ之ヲ混同シテ觀察スヘカラサルモノアリ
 祭祀等モ其基タル所ハ信仰ニ在リト謂フヲ得ヘキニ似タリ然レトモ今日ニ在
 リテハ祭祀等ハ社會的儀式ノ一種ニシテ信教其レ自身ト關係甚タ薄キ場合ア
 リ故ニ予ハ特ニ區別ヲ設ケ而シテ祭祀等ハ風教ト重大ノ關係ヲ有スル故ニ本
 款ニ於テ一言スル所以ナリ又其立派團體ノ主體ニ基テテ、風教ト、風俗ト、
 神社ハ神道各派ノ教法ト關係ナク專ラ祭祀ノ爲メニ存ス神社ヲ分テテ三トス
 (第一) 神宮ハ特例ノ位置ヲ有ス祭祀ヲ掌ル官職及ヒ造營ヲ司ル機關ハ勅奏判任ノ
 官吏ヲ用フ(第二) 官國幣社ニ於テハ其神官ハ勅奏任ノ待遇ヲ受ク(第三) 府縣社郷
 社村社ニ於テハ神職ハ判任ノ待遇ヲ受ク
 神官及ヒ神職ハ原則トシテ試験ニ由リ補任シ向ホ官吏懲戒法ヲ用フ
 神社及ヒ寺院ヲ創建スルハ内務大臣ニ伺出テテ地方長官之ヲ許可ス其移轉廢合

ハ地方長官之ヲ許可ス

社寺ノ經濟ニ付テハ神官ハ國費ヲ以テ維持シ官國幣社ニ對シテハ國庫ハ一定
 ノ期間毎年一定ノ保存金ヲ下付シ其一部ハ永遠資本金トシテ滿期後ハ其利子
 及ヒ他ノ收入ヲ以テ維持費ニ充テヘシトス古社寺ニシテ特ニ保存ノ必要アル
 モノハ官社寺保存會ニ諮詢シテ保存金ヲ下付ス
 此等補助ノ外國家ハ間接ニ補助ヲ與フル場合アリ例ヘハ地租ノ免除山林原野
 ノ拂下官林ノ委託等是ナリ
 此外祭典其他ノ儀式ニ關シテハ今一一之ヲ述ヘス
 行政法ニ於テ講述スヘキモノ此ニ止マラスト雖モ學期末ニ迫リシヲ以テ此
 ニ講筵ヲ閉ツ

行政法 終

行政法學科教科書

行政法

皇學士 菅井善一 編

三十三卷

行政法目次

第一編 總論

第一章 行政ノ沿革及ヒ意義……………一

第二章 行政法ノ法律上ノ地位……………一三

第三章 行政法規ノ性質……………二二

第四章 公權ノ觀念……………三二

第五章 行政行為ノ形式……………五三

第二編 行政組織

第一章 緒論……………九〇

第二章 官廳……………九二

第三章 官吏……………一〇一

第四章 官廳ノ種類……………一一九

第一節 内閣……………一二〇

行政法目次

第二章 各省大臣……………一三〇

第三節 府縣知事……………一三四

第四節 郡長……………一三六

第五章 自治團體……………一三八

第六章 地方自治團體……………一三三

第一節 市町村……………一三三

第二節 郡……………一六四

第三節 府縣……………一七二

第七章 行政訴訟……………一七四

第八章 行政訴訟願……………一九〇

第九章 權限爭議……………一九二

第三編 行政各部……………一九五

第一章 外務行政……………一九五

第二章 軍務行政……………二〇五

第三章 財政行政……………二二二

第四章 內務行政……………二四三

第一節 內務行政ニ於ケル警察……………二五三

第一款 保安警察……………二五四

第二款 行政警察……………二八二

第二節 助長事務……………二八三

第一款 人事……………二八三

第一項 國籍ニ關スル法規……………二八三

第二項 戶籍ニ關スル法規……………二八六

第一款 衛生ニ關スル行政……………二八九

第一項 保健行政……………二八九

第二項 醫藥行政……………二九九

第三款 救護行政……………三〇二

第四款 風敷ニ關スル行政……………三〇八

第一項 政 府……………三〇八

第二項 著作權保護……………三二一

第三項 宗 教……………三二五

第四項 祭 祀……………三二八

行政法目次 終

第一項 行政法之範圍……………二八六

第二項 行政法之分類……………二八七

第三項 行政法之效力……………二八七

第四項 行政法之執行……………二八七

第五項 行政法之救濟……………二八七

第六項 行政法之責任……………二八七

第七項 行政法之程序……………二八七

第八項 行政法之證據……………二八七

第九項 行政法之訴訟……………二八七

第十項 行政法之其他……………二八七

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス
- 一 一今年ヲ以テ完了セザルトキハ號外ヲ發ス講義録ノ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 十五日 二十日
 - 第三部 毎月 十五日 二十日
- 一 月謝金ハ全部費圓、各一部ハ半價トシ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講談會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試驗ノ上校外生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返信用封券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス月謝ハ東京飯田町郵便支局佛和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日 内務省許可

明治三十四年六月十四日印刷

明治三十四年六月十七日發行

東京市四番區四谷仲町三丁目三十八番地

編輯者 小田幹治郎

東京市芝區四ノ久保町光町十二番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區四ノ久保町光町十二番地

印刷所 金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

指 定

(電話番町百七十四番)